京城日報

二十八日夕刊 (朝夕刊併せて八頁)

本紙定價 △一部金二錢五厘 △一ヶ月金五十錢
廣告料金 △五號十五字詰一行金…
發行兼編輯人 印刷人 小川三之助
發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社
電話(編輯用)二四番 (營業用)…

◎重要會議の内容 當局は『差迫りたる問題に非ず』と

二十七日午前八時より午後二時に亘り山縣、奥、川村、寺内の四元帥上原參謀總長、大島陸相等參謀本部に參集何事をか密議せるは既報の如くなるが其内容に就ては或は軍團の新編成に關するものなりと云ひ或は對支兵器供給問題なりとも云ひ或は帝國が聯合國の一國として新たなる努力を爲す可き重要問題に關すとも云ひ種々取沙汰せられしも陸軍當局の語る處に依れば凡そ元帥會議なるものは 陛下の御召に應じ宮中に開かるゝものなれば今回の會合を元帥會議なりとするは當らず當歐洲對戰の推移に鑑み現在及び將來に亙り之に順應す可き計畫を豫め策立するの必要あり之等に關し協議せるに外ならず故に今後も引續き相當の時機に於て元帥等の參集を見る事ある可く其結果所謂元帥會議を開催せらるゝ事あるやも知る可からざれど今回の參集は別に今日差迫りたる問題の起りたるが爲めに非ずと稱し居れり(東京特電)

◎露都防禦員選定

ペトログラードに於る勞兵會委員軍事係、波羅的艦隊中央委員、芬蘭地方軍隊委員、鐵道從業員同盟、郵便電信事務備委員、勞働者及び專門職工同盟、及び國民兵はペトログラード市内外防禦の責任を負へる特別委員を選定せるが同委員は絶えず北方戰線司令官と聯絡を取る筈なり(露都電報)

◎露艇土耳古攻擊

セバストポール來電…露國輕巡洋艦及び水雷艇は其の有効的に封鎖中なりし土耳其黒海沿岸に對し奇襲を繰返したり捕虜の陳述する處に依れば土耳其兵は士氣頓に沮喪し居る由而して土耳其は今や饑餓に瀕せんとし獨逸は羅馬尼よりあらゆる物資を徵發して之れを土耳其に輸送中なりと(露都電報)

◎伊軍の攻勢準備

伊太利大本營附路透通信員の報道に曰く二十五日天候不定にして泥濘甚だしきも砲戰益々猛烈にして今やプレッツノーよりカルンノーに亘る獨墺軍の行動は其性質甚だ大規模のものなるを示すに至れり最も頑強に抵抗を試みつゝある我が第二、第三軍團は機を見て直ちに攻勢に轉ぜんとして準備しつゝあり(倫敦電報)

◎伊國内閣總辭職

羅馬來電=伊太利内閣は同國議會が政府不信任の決議を爲したる結果總辭職を爲したり(倫敦電報)

◎獨退却軍 佛戰線に進出

獨逸公報に曰く豫定の計畫に從ひ我軍は佛國のオアース、エーヌ河の北岸より撤退し伊太利方面にてイソンゾ戰線に進出し捕虜三萬を收め砲三百門を鹵獲したりと(倫敦電報)

◎問題の綿糸布 先物賣買 法律上有効也

三品取引所以外に於ける綿糸布先物賣買は法律上有効なるか或は無効なるかの解決は紛亂せる綿糸布界に大影響を與ふるものなりとて一般に注意中なりしが大阪第五商會對瀬二一郎氏の綿布先物賣買契約不履行に依る損害賠償四百圓請求訴訟は二十七日朝大阪區裁判所に於て綿絲布の先物賣買は有効なりとの判決あり被告は之れに服せず直ちに控訴せり(大阪特電)

◎長岡中將來奉

長岡陸軍中將は二十八日午後三時三十五分奉天に到着せり(奉天特電)

◎小林財務官通過

小林丑三郎博士一行は二十七日夜奉天通過大連に向へり(奉天特電)

◎入江書記官

入江拓殖局書記官は二十九日來奉せり(奉天特電)

◎大隈信常氏一行

大隈信常氏一行は二十六日長春より來奉二十七日奉天在留官民の歡迎會に臨み二十八日撫順を視察し二十九日朝京奉線に依り北京に向ふ筈なり(奉天特電)

◎小田切氏南下

正金銀行重役小田切萬壽之助氏は二十八日正午長春より來奉二十九日朝安奉線にて東上の途に就く(奉天特電)

◎龍居滿鐵理事

龍居滿鐵理事十八日午前七時十分來奉せり(奉天特電)

◎古海總長釜山通過

古海總務總長は二十八日朝連絡船壹岐丸にて内地へ向へり(釜山特電)

◎中村檢事長歸任

京城覆審法院檢事長中村竹藏氏は米國出張中二十八日朝高麗丸にて來釜午前十時半發列車にて歸任せり(釜山特電)

◎荒井上院議員

貴族院議員荒井泰治氏二十八日朝高麗丸にて來釜午前十時半發列車にて奉天へ向へり(釜山特電)

◎日露銀行設立の議 杜絶せる兩國爲替決濟の機關

日露の經濟提携を密接にせんため日露銀行の設立をなすべしとの議は夙に

▲兩國有力者 の間にあり寄り〳〵其の協調は進められつゝありし模樣なるが最近莫斯科商業銀行頭取コンシン氏の來朝あり吾が有力銀行首腦の會同一再ならず東京に於て開かれ日露銀行設立の機運は將に一進しつゝありと稱するを得るものゝ如し殊に今夏以來露國の外國爲替禁止令の實施より來る兩國爲替の杜絶は延いて日露貿易の沈衰となり日本對露貿易業者の甚しき打擊更に露國の物資不足を生み物價の暴騰を促すに付此際兩國爲替決濟を主なる機能とする日露銀行の設立は斷じて

▲不急の問題 に非ざるべきが右に付京城某有力銀行家の談を聞くにコンシン氏の來朝は正に日露銀行設立の要務を帶べるものにて目下進められつゝある協議の多くの更改を經ず事實とならば資本金は一千萬圓にてペトログラッド並にモスコーの兩地に本支店の何れかを置き東京には一支店を設置し主として兩國爲替決濟の任に當るべし又美濃部鮮銀總裁が久しく露都に出張しゐたる堤司事と相前後し最近急遽東上せしは素より日露銀行設立に關する要務を帶べるものにて

▲朝鮮銀行 は浦鹽並に哈爾賓に其の機關を有し居り現在日本の大銀行中最も露國に縁故深き關係上其の發言は頗る有力なるものあるべく或は新日露銀行の幹部には鮮銀より某局長を迎ふべしとの説さへある位なり唯目今露國の戰亂續き歐露の要地を獨軍に蹂躙せらるゝ事ともならば其の成立を告ぐるに非ざるかと思はるゝと

◎大連航廢止

昨年來問題となり居たる大阪商船の長崎朝鮮大連線航路は來年度(四月)より愈廢止するに決せる由なるが目下同航路は安東丸(約八百噸)一隻就航し居り長崎縣よりは一箇年七千五百圓市より五千圓合計一萬二千五百圓の補助あれど商船會社にては補助金の多少に拘らず廢止する意嚮なりと

◎滿鮮視察の代議士連 武藤、粕谷、熊谷三代議士車中談

代議士の鮮滿視察團とも見るべき政友會の武藤金吉、粕谷義三、熊谷直太三氏の入京を京城驛に迎ふ、團長格の武藤氏は頗る肥つた身體を搖り作ら元氣よく語る

怎うです此頃支那に出掛ける歴々衆の多い事は

▲支那へ! 支那へ!と仲々漫遊者が續く、大家揃ひの支那視察は吾が對支發展に資する所少なくなからうと思ふので、僕等の如き陣笠も大に喜んでゐますよ、吾々の一行ですか、マア仲の好い友達が打揃つて漫然と秋の旅行に出た樣な譯さ、又僕等は大家でないから支那本土には足を入れぬ、大連旅順に先づ行つてそれから北に上り滿洲の各要地を經巡り更に四平街から近く開業する四鄭鐵道の便乘を賴み可成深く蒙古にも入り込み、先づ出來るだけ滿蒙の經濟事情を見て來やうそして牛莊の匂ひを臭がうと云ふのです、歸りに又朝鮮を經由し京城にも二三泊したいから

▲土産話し は其時だ、僕は朝鮮には共進會の時も來たし、其の前も一二回視察したから大して珍らしくもないが、粕谷熊谷兩君は初めての渡鮮で今日も車窓觀察により朝鮮が思つたより拓けてゐる事を話し合つてゐる……武藤氏は本邦有數の生糸通である、話しが偶然生糸の事に移ると、サー來たと許り氏は面色を變へ[illegible]一人で背負つてゐるかのやうに虹の如く要領を摘むと、朝鮮の養蠶は吾輩未だ具さに調査もせぬけれど要するに大氣乾燥して飼育がやり易く勞銀高からず勞力もあり餘つてゐると云ふ點から之れを內地に比し

▲一段優越 してゐるだらう近年朝鮮蠶繭の生産は非常の激增で中には餘りに其の産額が殖ゆるため内地の蠶業を壓迫しはせぬかなどと心配してゐる者もある、イヤ農商務省にも内地蠶業の增進さへ餘り多きに過ぬかと危ぶむ役人さへある然しそれは單なる杞憂に過ぎぬ、生糸は今日對米輸出品でなく日用品である必要品となつてゐる一般的の裝身用には金と絹より外に何がある、現今羊毛や棉糸などを合せた絹以外の織物に用ゆる製織原料の需要は世界の人口十七億に對し一年間一人當り百五十匁だが絹は僅々五匁に過ぎぬ、乃ち三十分の一に止まつてゐる、世界文明の進歩と共に生糸を原料とする

▲絹の需要增 は之等の一例から見るも蓋し非常なものがあるに相違ない、蠶業家は時々多少の相場に高低あるも何等危惧せず大いに其の生産增加に努められて宜しいと思ふ、米國の日本生絲輸出制限説の如きは何等信ずるに足らない、若しさる事があつたら盛んな米國の織物業者は主要原料を失つて非常の打擊を受け米國財界の容易ならぬ問題となるのである

◎新連絡貨物船

關釜連絡船貨物船として從來運航せる御嶽丸の外新に第三共榮丸を運航することゝなれるが同船の船腹は約四百五十噸にして一日平均百五十噸の輸送力を有するを以て關釜間の輸送能力は同船の運航により一日總計九百五十噸に增加し此の內本州行に充つべき六百噸を差引きたる殘餘三百五十噸の船腹は全部關門及び九州行に割當てらるゝにより同方面の船腹は昨年に比すれば大に餘裕を有する譯なり

◎大東拓農作況

東拓大邱出張所管內現在小作人總數一萬五千三百人小作反別四千八百町步にして本年に於ける農作豫想を見るに南部郎ち淸道、永川、慶州、浦項地方は概して不良なれど西北部郎ち洛東江沿岸尙州金泉安東地方は概して良好なり而して收穫豫想は昨年に比し約一割減收二萬九千石の推定にて小作料百分の四十とし良田は約籾一石六斗平均反當り八斗五升の見込みなりと

◎久原滿洲製錬

久原鑛業會社は撫順に大製錬所を創設する筈にて滿鐵經營の硫酸製造所と硫化鐵を供給する替はり滿鐵より同社に對し撫順炭を安價にて供給の計畫成立せるが尙ほ同社は長沙方面にて製錬所を創設の筈にて目下準備中なりと

◎二代議士北行

二十七日入京せし政友會代議士武藤、熊谷粕谷三代議士は二十八日午前九時十分南大門驛發列車にて大連方面に向へり

◎川上理事歸京

西鮮方面視察中なりし東拓京城支店理事川上常郎氏は米山庶務課長土木課長を隨へ二十七日沙里院を視察し二十八日午後七時三十分南大門驛着歸任せり

□楊子江を下りつゝ(上)

十月十九日 釋尾旭邦

▲無佛居士及び目池君足下、余は濟南より津浦鐵道に依り、浦江に出で南京に渡り、南京より汽車にて上海に出づれば、時間も賃金も儉約になるが、特に船に乘りて揚子江兩岸の光景を眺めつゝ上海に向け下り候。▲青島濟南等の日本人は、昨年以來青錢の買入に熱狂し、所謂猫も杓子も青錢買に浮身をやつすこと宛かも京城人の一時タングステンに熱狂したるが如き狀勢にて候ひしも今は銅の下落と青錢買出しと追々困難を來せるとに依り下火と相成候も、昨年以來青錢の爲め青島、濟南の經濟界と人氣は非常の賑にて、青島三百の藝者は滿員にして、青島の各料亭は每夜札止めと云ふ景氣にて候ひき、此青錢買に依りて一躍數十萬圓の小成金を出し、濟南に出張せる久原の如きは互利を獲得したるものゝ雄との事に候、而も一方には此青錢買入の爲め深く支那奥地に入り、支那人に青錢買ひ入れの資金を強奪され、上打ち殺され、終ひに歸り來らざるもの百名以上に達すとの事に候實に戰慄寒心すべき話に候はずや、而も我官憲も民間其者も今は之を常事の如く考へ、敢て驚きの色を見ざるは、吾々の解し能はざる所に候、山東省に於ける日本人の生命の安値なること苦力以上に候、此青錢は由來支那政府より海外に流出するを禁じ居る樣子にて、此買賣は一種の密賣買の由にて、從うて危險之に伴うものに候、此青錢買入に就ては隨分面白き物語有之候も、今は省略致候。

▲無佛居士足下、余は濟南より浦口に下る途中、曲阜に下車して孔子の生地に詣で、其廟を拜し候、其規模の雄大と結構の壯大には驚き候、殊に至聖林と云ふ孔子の墓地の廣大なるには、一層驚異の眼を開き候、其れと共に支那人としては殆ど一人の參拜者をも見ず、此聖域に集まる支那人は、多く日本人及び外國人參拜者の金を絞り取りて、生活せんとする者に過ぎざるを見て一層驚き候、支那民族の墮落は、此一事に於ても遺憾無く語り居候、然して此行余は支那語を解せざる上に單騎旅行を企てしとゝて非常の困難と失敗を嘗めし事は此行の記念に候。

▲無佛居士足下、南京は流石に唐宋以來の舊都丈あつて何處と無く我京都に似て、古雅な所に有之候、唐宋の遺跡としては別に尋ぬべき所無之候も、明の廢墟遺跡は尚ほ多く存し、吾人をして低徊顧望去るに忍びざらしむるもの有之候、古物陳列所には唐宋明時代の石や金屬にて造りし色々の遺物陳列されたり、中には垂涎に價するもの有之候、其れよりは市中の骨董屋にて、一寸明瑞の逸品を見出候に付、價如何と問へば三十圓と申候、京城にては數百圓と申す品に候、小生垂涎三尺、暫く去る能はざりしも、懷中と相談し前途不安の爲め財布の紐を解かずして去りしは、如何にも殘念に候ひき。

◎高野店長歸京

三井物產京城支店長高野省三氏は大阪方面に旅行中なりしが二十八日午前八時五十分南大門驛著列車にて歸京

◎南山本願寺の報恩講

南山本願寺にては二十一日より二十八日まで宗祖見親大師の報恩講を催し二十八日迄は說敎ありたり

正誤 二十八日朝刊電報中『伊國內閣信任』とあるは『伊國內閣不信任』の誤りに付訂正す

人事消息

▲坂田技師 二十八日朝仁川へ
▲久保滿鐵京管局長 二十八日午前元山へ
▲京城中學校職員生徒九十七名 二十八日朝滿洲より歸校
▲伊藤猶藏氏(慶北內務部殖產課長) 二十七日夜元山より入京巴城館へ
▲薄益三氏 二十八日朝退京
▲飯田精一氏(代議士) 二十七日夜入京天眞樓へ
▲私立梨花學堂生徒一行三十名 二十七日夜水原より歸校
▲京城中學校生徒一行百九十名 二十七日夜成歡より歸京
▲トップスキー氏(露國軍需品檢查官) 二十八日退京歸國
▲オイスチン氏(上海稅關監督員) 同日退京
▲柴田榮吉氏(三井物產社員) 二十七日夜入京天眞樓へ
▲今西政二氏(日本興業會社員) 同上二十八日朝退京

彼れ此れ

○物には反動あり、其の壓迫が強ければ、強きだけ其の反動の大なるは、當然也。獨逸國內の風潮漸次險惡を加へ來れるは、即ち政府壓迫の反動也。欺かれたる國民の、覺醒也。獨逸も亦、近に國內より、滅亡せんとするか。

○勃帝フェルヂナンド、獨帝を戰線に誘ひ、モナスチールを猛擊して、御馳走に供す。見る者は痛快ならんも、弄ばれたる戰士は、決して愉快に非ざる也。勃帝は戰爭を、娛み半分と心得居るなるべし。

○湖南の衡山に於て、南北兩軍の激戰ありしと報せられたるも、一人の死傷者の發表なきは奇怪也由來支那の戰爭は、先づ電報戰に始まり、實戰に入るも、互にひ、殺生を避けて、喊聲の大なる方を、勝利者となすが如し。張飛の一喝萬軍を退けたるも、嘘言には非ざるべし。所謂大聲突擊の、眞の要領を得たる者とや云はむ。

○紐育特電は、日米共同動作を語りて。或る國際法違反行爲は、近く米國の手によりて、行はるべく、其の一部は、日本によりて、實行せらるべし。而して米國は、日本の援助を條件として、極東問題に關する、總ての權利は、日本の爲めに、讓步すべしと云ふ。其の行爲の、何たるは知らず。然ども秋闌にして、天高馬肥、櫻田門外、將帥の縱橫を見る。坐ろ爽快の感無んば非ず。

鞄製造販賣

皮より強い値の安い 專賣品柳製鞄
日ノ丸國旗附屬品
毛布二枚續き 三圓五十錢以上上物色々
防水布マント各種
魔法瓶及中瓶取替

京城本町一丁目 高木旅行用具店 電話一三四番

料理の友

十一月號 ◇新時代の婦人の修養(松村介石) 新食物の研究に就て(澤村博士)
◇生活難と物價調節策 物價騰貴と主婦(大江すみ子)
◇樂しい生活と苦しい生活(宮田修) 有効な食事法(鹽田廣重)
◇一人前十五錢の新案折衷料理 ◇秋鯖の料理(五種) 誰でも喜ぶ美味しい茶碗蒸し
◇卅錢で四品の家庭洋食 ◇鯛と野菜で拵へた見事な獻立 ◇美味しい漬物
實用向家庭晩餐の御馳走 ◇一日十五錢で安價生活の實例
◇平民的豆腐の新料理(三種) ◇京都風の野菜料理
◇手輕な西洋一品料理(三種) ◇素人にも出來る風雅な茶料理
◇大根と里芋の惣菜料理
(美麗寫眞 彩色畫 十數個揷入)

內科 小兒科
京城府明治町二丁目(本町江戶川横より入る) 電話三七八番
中島醫院 入院隨意 院主 中島貞信

婦人畫報

◎◎成金の家庭は幸福か ◎旅の娘の印象
□川柳に現はれた嫁姑 □女中に話して聞かせ
▲人の世話した實驗
□しぐれ(美人畫)
長篇小說 須磨子
□風水害地を慰問して □美人川勝歌蝶
○禍の門 ○室內の色の配合 □危險な小兒の體質 □心臟病の話
十一月號 東京京橋鍛冶橋外 發行所 東京社

婦人畫報 新年特別 子だから號 懸賞募集
◎子供の生れた喜び(二十字詰二百行以內)
◎子供を亡つた悲み(二十字詰二百行以內)
賞金壹等拾圓(宛)△貳等五圓(宛)△參等參圓

●勇敢なる傳書犬
哨犬として敵襲警戒に効が多い

近業の『タイムス、ウイークリー』に歐洲戰爭と傳書犬に關する左のやうな記事が載つてゐると遞信局の矢野通信課長は語る

今回の歐洲戰爭に際しては盛んに軍犬を使用して居る、佛國には軍犬養成の爲め學校の設置があり特に熟練なる教職員を任命し軍犬として必要な

◇各種の訓練をやりて以て勇氣あり且つ注意深き軍犬として之れに必要な各種の技術を教へてゐると云ふ佛國戰場では軍隊間に於て命令の傳達其他各種の重要報告を授受の爲め盛んに軍犬を使用してゐる、即ち軍犬が傳令使の任務に服する次第であるが彼等は人間さへ其任務遂行に困難を感ずる場合でも彈丸雨飛の間を物ともせず且つ各種の

◇困難に遭遇しても能く忍耐して其任務に盡してゐるらしい此傳令使の任務たるや頗る危險且つ困難であるから各種の軍犬の任務中其死傷者最も多く且つ病者も少くない然るに各傳書犬は何れも勇敢に且つ沈著に而して忠實に其任務を盡してゐる、或る傳書犬の如きは疾走中敵彈の爲め其顎骨を粉碎せられしにも拘はらず

◇猶其命令を全ふしたるものがあり又或る犬はベルダン要塞の傳書犬として四箇月間間斷なく其任務に服し其功勞少なくなかつたが精神過勞の爲め神經的疾患に罹つたと云ふ斯の如く傳書犬としての軍犬は或る場合には人間以上の功績があるやうだ、軍犬は傳令犬として使用せらるゝ外哨犬として

◇塹壕の内に勤務し敵襲を警戒し其功勞は往々哨兵よりも多大な事がある或る戰場では濃霧に乘じ獨逸兵の來襲せしとき哨犬は直ちに之れを覺知し之れを其所屬隊に報じたから部隊は其全滅の厄を免れしこともあつたと云ふ其他番犬として軍器庫を護り或は捕虜の逃走を防ぐが爲め之れが監視をなすこともある、又衛生隊用として負傷兵の

◇搜索並びに救護をなし或は衛生材料を運び又運搬犬として小さき荷車を牽き或は機關砲の運搬をやり捕鼠犬として鼠狩に使用せらるゝ等軍犬としての使用範圍は頗る廣大である。斯の如く軍犬の功績頗る多大で軍事上頗る重要だから英、佛等では人間に赤十字病院ある如く

◇軍犬及軍馬の爲めの赤十字病院を設置し病犬及び負傷犬の療養に努めつゝあるとの事である、即ち軍事上より見るときは軍犬の効用頗る多大で彼等の功勞を單に犬馬の勞なりとして之れを輕視する事は出來ない譯だ

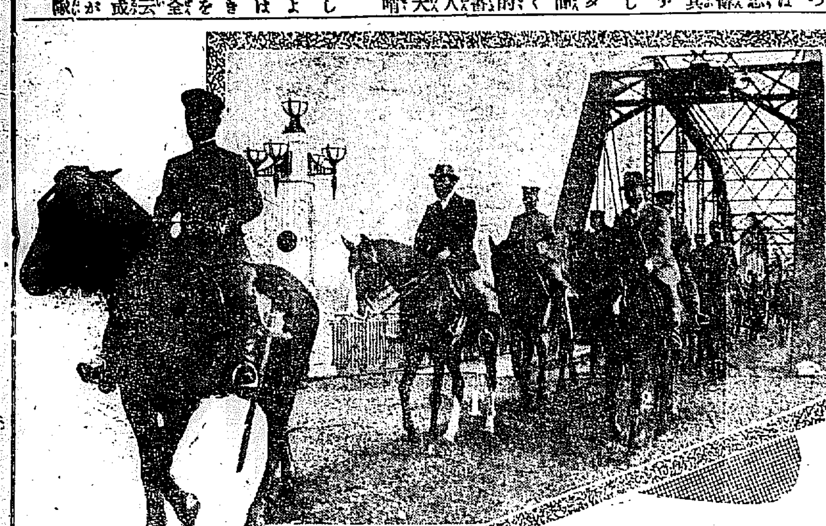
□東宮殿下行啓
化學工業博覽會へ

皇太子殿下には廿八日午前七時四十分化學工業博覽會に行啓せられ各種の實驗御臺覽午前十一時御還啓あらせられたり（東京特電）

●八幡製鐵事件
火の手東京に及ぶ

福岡縣八幡製鐵所二瀬出張所事件にて東京麻布區霞町三井物產會社石炭部總務掛主任長樹茂(五六)は福岡地方裁判所よりの囑託により二十四日令狀を執行されたるが

圓にて取調を受け居れり尙廉生家の店員は悉く召喚取調べ中なり（福岡電報）



◇乘馬黨の遠乘　軍司令部乘馬黨有志の發起で二十八日の日曜日に龍山から永登浦に遠乘を試みた總員官民合せて七十餘名非常の盛況を極めた　1は立花師團長2は芳賀博士

●大仕掛の假裝行列
奉祝提灯行列參加者の意氣込み

天長節奉祝提灯行列參加申込みは續々として到來し何れも却々趣向を凝らしつゝあり東亞煙草會社にては一千名の由なりしも

▲更らに五百名を加へ一千五百名の行列參加あるべく京城電氣會社も二百名の由なりしが更らに百名を加はへて三百名とある筈前景氣頗る盛なるが上に新町組の如きは六尺二間の大屋臺を出し大和町の如きも大屋臺を出し其れを數十臺の假裝をなせし連中にて賑はしく引き歩く筈大したる趣構なるが

▲假裝參加者も非常に多く唐川吳服店は二十餘名の假裝行列をなすべく龜屋よりも大高張に假裝行列秋菊屋は白浪五人男釘本商店及び樂器店にては上下藥用の卅五名の假裝行列を大提灯松風會の如きは却々凝つたものにて三十餘名は鳴物入り揃の鳥追姿にて繰り込むべく殊に同會は

▲其のため衣裝の新調をなし居りされば當役が如何に盛なるかは推察するに難からざるべし尙申込續々なれば順次發表すべし

●偽造切手で大儲け

慶北善山郡生れの金洛守(三〇)は以前商用に使つた大邱銀行の小切手一枚に三千二百餘圓と記入し振出し人の名を偽り印章を偽造捺印して之れを行使しやうと仁川方面を持ち廻り本月中旬釜山南濱の難波支店内の金と云ふ鮮人の手を經てこの偽造小切手を擔保にし大阪に定期米四千石を買ひ込み遂に千三百圓を儲けたるが後に至り小切手が偽造なる事が發覺し釜山署にて取調べ中

●又も增水
大阪府下慘狀

淀川大塚堤防缺潰口及び神崎川新庄の缺潰より河水氾濫し下流なる西成郡內の浸水地は二十七日夜に入りて大に增水せり（大阪特電）

●初めて滿洲を見學して
京城中學生徒一行歸京

滿洲見學の途より歸京せる京城中學校職員生徒九十七名は廿八日午前八時五十分南大門驛前にて解散したるが引率の藤原教諭は曰く一行は十九日朝京城發翌朝撫順を見學して同夜奉天に一泊二十日は奉天城內外

▲古跡其他を見て二十二日大連に著し更に旅順戰跡を弔ふて二十五日再び奉天に引返し歸途につた

本校は濟安東驛等を祝祭したので本年生徒は始めて滿洲の地を踏んだ事とて非常に感興を催して居つたが奉天撫順大連等に於ける

▲滿鐵經營の規模が大きいのには一驚を喫して我國力發展の如何にも充實して居る事を痛切に感じた模樣であつた大連では滿鐵會社の好意に依つて終日電車を提供して貰つた爲め見學上便利であつたし旅順では實戰に臨んだ人々から戰跡の案內を受けて當時の模樣を聽く事を得

▲土壤の潰廢した處から枯骨や武器の破片や革などが現はれて居るのを生徒は爭つて拾ひ記念の爲めに持ち歸つたが何れも日露當時を追想して悲愴の感を抱かざるを得なかつた、滿洲は高粱の秋も過ぎ沿線の風光は俄に蕭條として寒氣も頗に加はつて居たが生徒の健康狀態は頗る良好であつたのは何よりも喜ばしい事であつた

●片足を轢切らる

二十八日午前九時頃京城電氣株式會社の五十五號電車が龍山より東大門に向け吉野町停留場附近を進行中前方より來合はせたる三坂通野多三郎妻女某は二男三郎(三)を連れ電車軌道に接近して通行したる爲め運轉手金天命(二八)は急遽電車を停車せしも勢力の爲め遂に三郎は車輪に觸れて左脚を足首より切斷されたり天命は直ちに三郎を附近なる吉野町の濟生堂醫院に連れ行き應急手當を加へ目下加療中なるが一方京城地方法院檢事局よりは檢事木村部長出張して現場の檢證を行ひ運轉手金天命を引致取調中

●船夫三名溺死

扶安郡下西面海倉里朴光石(三〇)同村東明(二〇)及び崔京先(二五)の三名は去る十一日午後同郡同面同里の朝鮮形帆船に乘組群山に向け航行中行衛不明なりしが十九日前記朴東明崔京先の死體が船の破片と共に同郡幸安面界入島の西海岸に漂著し居るを發見したり

●白鶴貞吉來る

東京讃說界に重きを為し居れる大島伯鶴並びに邑井貞吉の兩人は今回浪花館の招聘に應じ三十日來鮮三十一日より同館に出演する事となれるが先日當地に來りて好評を博せし伊藤痴遊以來の聽き物なるべし

●佛軍の分隊長たりし
日本將校戰死す

陸軍豫備少尉鹿兒島縣人龍岡興弼氏は渡米中歐亂の勃發に會し同志二十餘名と共に佛國に渡り佛國義勇兵として戰線に立ち分隊長となり曾て塹壕より友人に對し書信を齎らせる事ありしが今回戰死せる旨郷里鹿兒島より廿七日仁川署に在る友人安藤氏に電報あり同氏の語る處に依れば氏は小年時代より頗る豪快にして蕃勇を以て鳴り日常の事悉く常人の企て及ばざる事多かりしが壯烈の戰死を遂げたるは惜むべしと（仁川）

●死傷者一萬四千名
墺國ステフイールド兵器廠の爆發

羅馬來電＝墺國ステフイールド兵器廠爆發し死者四千名負傷者一萬を出し實に目も當てられぬ慘狀を呈し居れり（大阪特電）

●潛航艇の秘密
近く有樂館に來る

東京帝國劇場に於いて十日間公開しその入場者の多數なりし事に於いて日本に於ける記錄を造りたるアメリカンフイルム會社特製の連續寫眞『潛航艇の秘密』は全十五篇三十卷の連續寫眞は近く有樂館に公開する由

●汽車延著

二十八日午前八時五十分着の奉天行急行列車は途中機關車故障の爲め一時間三十五分延著せり

●數千の貔貅
薄に埋れて
壯快なる戰鬪
北鮮の秋季機動演習

北鮮の野は既に秋も衰へて司乙嶺以北の如きは紅葉も散つてそぞろ凋落の秋を思はしむる物があるが清津より會寧に至る迄の秋色は闌

♣沿線の山岳は 松の深緑に燃ゆるが如き紅葉がだんだら染めに織りなされて其の美觀は譬へんやうも無かつた今年から山城山及び附近一帶は適度の演習の中心地であつたが此の方面の廣漠たる山野一帶は萬目離れ雪と見紛ふ許りに薄が密生して朝日夕陽に映ずる光景に至つては奇觀と言はうか偉觀と言ふ可きか、兎に角秋の眺めとして

♣この位ひ雄大 の景色をもつてゐる處はたんと有るまいと思はれた、演習は此の原野で行はれたが幾千の雜兵は頭を沒する薄の原に身を埋めて作戰し其上を空砲轟き銃火閃き喚聲湧き豪壯の氣は會寧平野を壓しつた夜の實景に至つては更に壯觀なる者であつた然し此の地方は一般に寒氣が強い爲め十九日以降の攻防演習の際の如き吹き荒ぶ強風の爲めに

♣墻土を掘れば 砂塵舞ふて作業が出來ず 西北風の齎らす寒氣の爲めに氣溫は下降して十月の上旬には已に地隙に氷が張る始末であるから演習に參加する者の困難は並一通りではなく殊に連日連夜の睡眠不足は疲勞困憊に陷らしめたが將卒に一人の傷病兵が無かつたのは幸にして何より可き事であつた今度の演習で最も嬉しく思ふたのは地方民が軍隊を好感を以て迎へて呉れた事と憲兵隊の斡旋で非常か圓滑であつた事

♣道路が完成し 演習部隊の行動が敏活になるを得た事等であつた斯する國境に至る地方は目露戰爭以來軍事上重要の意義を有して居る地方は軍隊の如きも常に行る關係上軍隊の出動する爲め地方民は軍隊を了解して居るから此點に於ては非常に好都合であると共に年々歲々地方官憲の指導宜しきを得て道路が改善されて軍事行動に多大の便を受くる事の多くなつたと言ふ事は我々として感謝せざるを得ないのである（山崎參謀談）

ウヰスキー　京城　青木堂

讀者文藝（一等に五十錢 其他は粗品を呈す）

△川柳「病」

○秀才の病氣でやつと首席占め（一等）　京城明治町　しげ子

▲よく太る病氣で下る小間使　龍山　小草子

▲醫者の止つた頃は病氣なり　京城　松花

▲居候此病使つて寢つちまひ　京城　紫光

▲難病も難病治に生きたがり　利川　守山

▲物價騰貴下手に病氣もやりかねる　利川　ふの字

▲片附けた病院丈けは二階建　元山　仙突

▲臆病な奴に怪我聞き度がり　元山　水香

▲作病の薬害もする診斷書　龍岩浦　劍牛

漁夫六名溺死

全南濟州郡舊右面毛頭里[illegible]

養父の土地を賣却

全北南原郡[illegible]面杏亭里崔秉鉉の[illegible]たる同郡南原面の居住高利貸四元才(四〇)は早速前記李伯烈と謀し合せて遂に時價一萬圓以上の價格を有する土地を四千七百九十圓九十[illegible]

[illegible]等客　一等(二十一名)尾高次郎、古田鎌太郎、永原正雄、同厚子、田中さだ、永原年章、阿部碧之輔、渦澤三、旅在政吉、武藤金三[illegible]田和勘吉、齋藤[illegible]、大戸復三郎、北野[illegible]、島田宗滿、佐々部迂一、信部軍三、李[illegible]、木天慶、坂内こま、同うた、茅野齊藏[illegible]長江番江、及川三四郎[illegible]郎、中瀬庄三郎、尾崎俊功、別坂謙三、川[illegible]外つ子、同や子、坂野すみゑ、淺野ひさ、川端衛次、外八一名　三等(八十名)

●解警戒（十月二十八日午前九時三十分發）

平安南北道、黃海道、京畿道、忠淸南北[illegible]

讀者文藝課題及び募集規定

[illegible]　締切　發表

□募集規程

▲用紙は端書又は同形の用紙一枚每に紙上の雅號又は匿名の外に住所氏名明記の事　▲賞は一週間後　▲種類の異る每[illegible]

天氣

西の風晴れ（十月二十八日午後六時發）

▲十月二十九日[illegible]

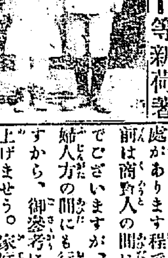
日出 六時五十四分　日沒 五時四十分

心臟 脚氣 特効藥
ベリベリン
心臟諸症 脚氣諸症 水腫息迫 動悸其他
定價 十錢 卅錢 五十錢
各地特約店藥店にて販賣す
東京京橋南傳馬町三 星製藥株式會社

胸の痛・腹の痛・鎭痛藥
ホシコロダイン
胃腹中腹食吐 痛腹神經痛
東京京橋南傳馬町三 星製藥株式會社

今般當會社解散候ニ付當會社ニ對シ債權ヲ有スルモノハ大正六年十二月三十一日マデ清算人ニ申出ラレタシ此期間內ニ申出ナキ債權ハ清算ヨリ除斥スルコトアルベシ
右廣告ス
大正六年十月廿日
釜山棧橋株式會社
清算人 迫間房太郎
同 大池忠助
同 豐田福太郎
同 井谷義三郎

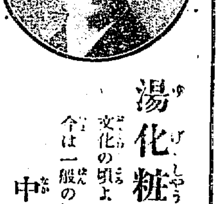
米國ナショナル會社製
ペテコート・子供用ハンカチーフ・沓下カバー等新荷著



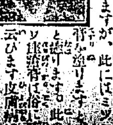
子供婦人服專門
コドモヤ洋裝店
京城旭町一丁目 電話取次三七九番

寫眞
京城日報社寫眞製版部
寫眞出張撮影 寫眞銅版

湯化粧の話
文化の頃よりありし湯化粧今は一般の御婦人方に及ぶ
中村魁車談



湯化粧と云ひます化粧法は昔から文化の頃に出ありましたもので、女子風俗化粧秘傳と云ふ本の中にも既に湯化粧の傳と云ふ處がありますでございます。以前は商賣人の間に行なはれたものでございますが、今では一般の御婦人方の間にも行なはれて居りますから、御參考にまで手順を申し上げませう。家庭の湯殿でしたら頃あひの加減に湧きました浴槽に凡そ猪口に一杯ほどミッツ花の雫（オー・ド・フラール）を灑して、此の芳香のいゝお湯に浸ります。湯でしたら、桶にとりましたお湯の中へ此のミッツ花の雫を四五滴たらして用ゐますと、いゝ芳香のお湯で皮膚が濡れますから、此の皮膚にミッツ石鹼を溶いた泡を塗りますと、脂肪の汚垢は此の石鹼の作用の泡沫に吸はれる樣になつて泥りますから、此をお湯で洗ひ流しますと、泡沫は汚垢ぐるみするりと落ちて皮膚は清潔になります。此の湯上りに清潔になりました襟から首筋へかけて、白粉を丁寧に濃化粧に塗りますのですが、此の白粉下としてミッツ健膚藥を用ゐますので清潔になりました湯上りの襟から首筋、顏と、此ミッツ健膚藥を塗りまして、擦り込む樣にしまして輕くしましたら濡手拭で抑へる樣にしますと、皮膚に吸はれない餘分が除れてしまひますから、樣から首筋へかけて丁寧に濃化粧をしますのです。塗り終りましたらお湯で搾りました手拭で輕くおさへますと美しい湯化粧が出來上ります。此が濟みまして、銭湯ならばお宅へ引上げまして、改めて顏のお化粧に取かゝりますのですが、その前にも一度極薄く白粉を塗つて置きますと、長い間粧崩れがせずにお化粧が保ちます。若し湯化粧でしたらば、もう一度することをせずに直ぐそのまゝ粧をなされば顏の白粉と濃度うつり合つてよくなります。の濃い襟白粉と薄い顏の白粉との濃い淡いの繼目が、ねて際立ちいのですが、恐らずにミッツ石鹼を使つて入浴をしまして、湯上りに必ずミッツ健膚藥を用ふ樣にしますと、自然と肌が整つて參りまして、繼目が際立たず、ほんのりと行く樣な化粧が出來る樣になります。それからお子さん達のおすこやかなのに限りませう、お子達は夏でも



▲林長三郎曰く『一寸申しますが、此にはミッツ健膚藥と云ひますが、皮膚病には大變よく利きます』と

▲發賣品目錄進呈　東京橘町　丸見屋商店

…名は行衛不明となれる椿事あり…最近に至り死體の發見せるを發見…して…の事情判明せるものなりと…

…川町の…所在番七十餘坪を自己の所有なりと詐稱し該番地を抵當に金五百圓を借用し呉れとの事にこれを聞き…錢にて買占めたること…目下取調中

◎連絡船上陸客 廿七日午前八時五十分釜山着…新羅丸…名共群山署に引致され目下取調中 [illegible]

菊の盛り

―が近付いた―

山菊の可愛い姿は來月初めが見頃

霜深き晩秋の園に清楚の姿を誇る菊は、惜し氣もなく芳芬を放つて色種々に咲き初めた、今年は氣候の加減と芽挿し時に雨が多かつた故で何處も同じに好い菊を腐らした者が多く數に於ては隨分減つて居る樣だが、出來から云ふと今年は或ひは上出來かも知れぬ、と通人は云つて居る、滿開の見頃はどうしても來月五六日頃で其頃には

◇例に依つて菊◇

天狗の持ち寄り品評會が催ほさるゝ事になつて居る、近來著しく流行して來たのは山菊の懸崖造りで其道にかけては、去年も特等賞で銀盃を貰つたと云ふ小學校の小笠原氏など今年も隨分好い物を造つて居る、菊造りの先達として非凡の技倆を持つて居る出井氏が今年は轉居した爲めに非常に鉢數が減つたと云つて居るけれど裏に廻ると相應に並んで居る内に眼を樂しく遊物も可成りに在る

◇仁川の菊界は◇

技師に於ても出來に於ても決して京城の斯界に遜色は無い、とは强ち天狗連の話許りでもないらしい、一番早くて目下咲き誇つて居るのは黄色の永樂の園とか淡紅色の水亭の月などで八阪樓の前や平山氏の軒下などには黄紅紫白とり／＼に芳芬床しく咲き亂れて居る、其他市中到る處に得意の幾鉢を見受くる如く御國の花は年々愛養家の數を增しつゝある、軈て可憐な野趣の山菊が溢るゝ笑みを洩らす時天狗の庭には觀賞の訪客が絡繹たらう、それは來月の…からである(仁川)

滿洲粟の輸入

米價騰貴の影響は鮮人の中流以下の家庭をして大半粟食と變せしめたる結果滿洲遼陽長春方面より粟の輸入を盛んならしめたるが昨今漸く輸入せらるゝ滿洲粟は中々に多量になり相場は上物石十四圓並物石十三圓四十錢を唱へつゝあり本月二十日前後より黄海道産のものも多く移入を見つゝあり

補助貨緩和

去月來補助貨の拂底著しく一時は商取引に多大の不安を與へたりしが其後小額手形の十錢及び五十錢二回の輸入あり稍緩和されたるが本月十九日朝鮮銀行支店に小額手形にて二千二百圓十錢銀貨に四千圓の來著あり同銀行に於ては各取引先の手を經て拂出したれば市内商人は俄に活氣付き年末を控へて店に出さぬとし補助貨も同時に市場に吐出され市況敏活となれり

芳菊百態

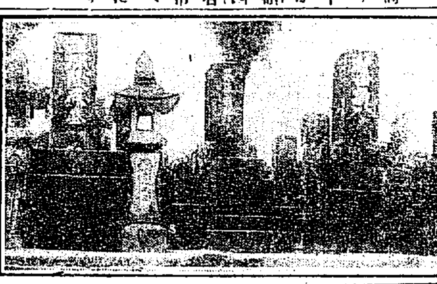
(三) 城南 讀月生

古來支那の年中行事中九月九日を重陽と云ひ又菊節、重九、九九、菊天、茱萸節、黄節と名づく、高きに登り菊の酒を飲むの風あり我國に於ては陰暦九月九日を以て菊節句と云ひ、宮中に於て菊の宴あり重陽の宴、九日の宴と稱し觀菊會を行はれありしが、明治十三年十一月十八日赤阪離宮に於て觀菊の御宴あり、以來毎年年中行事の一として十一月に於て觀菊の宴を八重菊の千歳の色香を競ふ花前に行はる、且つは先帝陛下天長の佳辰は十一月三日にして

△今上陛下は 十月三十一日を以て天長の佳辰とせらる、一昨秋御即位の御大典に際して國花として用ゐたる此花は、昨秋十一月三日立太子の祝典に發れある花たりき、支那に於ては菊を落脂と名づけ、或は日精と云ひ、又周盈と名づけ、一に公延年と傳ふ、紫蕊氣香しく味美にして之れを服し疾を癒し年を延す可しと云ふ又九月九日高きに登り菊花の酒を飲みて以て災を消すとあり、荊州記に酈縣の北に菊水あり、其源芳菊岸を被ふ、水甚だ甘馨胡廣久風痾を患ひ此を飲て疾遂に癒ゆと、劉家菊譜の序に曰く、凡花以春盛實、以秋成無物不然、而菊獨以秋花悅茂於風霜搖落之時此其得時異也と又風俗通に南陽酈縣有甘谷、谷中水美上有大菊落水從山流下得其滋谷中人家飲此水壽百二三十其中百餘歳七八十則ち夭とあり、彼の陶淵明の菊を愛したるは言はずもかな、歸去來の辭に歌つて曰三經就荒、松菊猶存と又神仙あり名は菊慈童千萬歲にして尙童子なり、常に

△菊花芳芬の

裡に遊ぶ老の至るを知らず、怡然として不崩不壞の生命を保てりと、之れ菊花の精を人格化したる一片の詩たらんも、亦面白き傳說たり、而かも謠曲に見たる菊は如何、[illegible]白衣の故事より長月の重陽に山路の菊と菊水と谷水とを引き、[illegible]成經三分寒棲の有樣を序し、彭祖が七百歳を經しに比し菊の千歳に比し配所は千歳を經る心地すとて配所はいつ迄ぞと嘆じ、猩々には菊を賞して夜もすがら、藥の名をも菊水、白菊、キセワタ等を引用し、忠度には心の花も亂菊の狐川よりひき返し云々とあり、酒には菊の酒あり味淋の一種とす、又菊正宗は清酒の白眉、俚諺に六蒲十菊あり、六日の菖蒲十日の菊は其の間に合はせるを云ひ、煙草に菊世界あり



◇鹿兒島より 芥川正

秋雨蕭條の夕、千古の英雄を弔ひ申候。(十月廿六日)

一路北鮮へ

◇日曜日の午前九時三十分發車の元山行列車に飛び乘る。車中に鮮銀の三島理事あり、獵裝凛々敷愛犬ビス公を召し連れ微笑を喞みて悠々たり

◇聞けば議政府方面に鶉征伐との事、お供のビス君は斯道の達者、別けて鶉に對しては特殊の技能を有し日曜毎主公に供して餘りに剩叢の中を縱橫健鬪するが爲め滅茶々々に其鼻端を傷けて居るウイ奴なり、鶉は立端電光形に飛ぶ故一寸擊ち難い、鶉は舞上る一剎那動作頗る遲鈍なれば案外容易に仕留めらるなど暫時は銃獵談で持切り

◇列車は軈て議政府に至れば、病後の三島氏は降り立つ獵期の秋凉に復活して意氣揚然たるを見る。

◇京元線の中繼驛福溪のドサクサに夢破れ、晝餐を喫し一盞の醉を貪る、列車は洗浦を過ぎて三防に向け喘ぎ乍ら徐行す、此所數哩の間は山間の峽路、即ち天下の絕勝金剛山脈系の裾で、仰げば左右の山嶽は奇岩怪松兀突たり、俯瞰すれば細く流るゝ深碧の溪流は宛然蛙を追ふ小蛇の如うに、晩秋の[illegible]元線洗浦三防間の山姿水態は確かに朝鮮全線中筆頭に値ひする

◇森林幽谷の奥に陰されたる古刹釋王寺を右手に通過、列車は定刻元山驛に入る。直ちに河合鮮銀、石川鵜鄉、西田元鄉の三氏を歴訪す。何れも今次余の帶べる使命の遂行に多大の後援を快諾されたる事は衷心より感謝に堪へず。幸先好きを自ら祝ふて深更北航の鏡城丸中の人となる、船長、機關長、事務長何れも年來の親しき知己の人、樂しく圓かの夢を乘せて北上す(日本海を縱航しつゝ…白川生)

◎大同江舟運 古非仁太郎氏等の經營にかゝる大同江舟運事業は既に報道せしところなるが創立の機熟し平壤の有力家に就きては已に報道せしところなるが…して何れも其擧に贊し資本三萬圓の出資持分株を承認し本月廿十日午後一時より平壤商業會議所樓上に於て創立發企人總會を開催すべく備終つて武藏野に於て晚餐會を開くべしと倘創立事務は當分平壤商業會議所の一部を借受け執務すべしと

◎狩獵免許數 平壤警察署に於て二十二日迄に許可したる狩獵免許數は甲種十一名乙種百十二名なるが明年四月終獵期迄には甲種五六十名乙種二百名位の多數に上る豫定なり

守袋のお札

京都の伏見稻荷のお札と、久留米の水天宮のお札とを入れてある守袋を、年雄君はお母樣から戴いて、首に掛けることゝなりましたが、三日ばかり掛けてゐるうちに飽きてしまつて、その守袋を首から外して、机の上に打つちやつて置いたり、疊の上に投げやつて置いたりしますので、『まあ勿體ないこと、年雄さん罰が當つたらどうするの？』とお母樣は、守袋を押藏いて、簞笥の上に上げてお置きになること度々でありました。年雄君はある日のこと、その守袋を簞笥の上から引張り下し、守袋の打紐を人指指に掛てぐる／＼と水車のやうに廻したり天井に投げ上げて下から受け止めたり、二つに折り曲げて打紐で括つたりしてオモチヤにしてをりましたがお湯を飲みたくなりましたので、守袋は疊の上に投げつけて置いて茶の間へお湯を飲みにまゐりました。守袋の中の伏見稻荷のお札は、水天宮のお札に向つて、

『どうもひどい子供ですね。』『さうですね。餘り亂暴過ぎますな。』『二つに折り曲げられた時は、どうなることかと思ひましたよ。』『私もどうなることかと思ひました。』『一層他所へ行つてしまはうではありませんか。』『贊成します。あんな亂暴者の守袋の中へ入つてゐると、お終ひには、どんなひどいことをされるか分りませんから、今の內他所へ行つてしまつた方が好いかも知れません。』『その通りですとも。それでは一緒に他所へ行つてしまひませう。』『さうしませう／＼。』と二枚のお札は、守袋の中からそつと這ひ出しました。這ひ出したばかりのところへ、お茶の間から年雄君が歸つて來て、一目見てびつくりしまして、『アッ、お札が！』と言ひながら、這ひ出したお札を押へつけました。そして

『あなた方は何處へいらつしやるんですか。なぜ守袋の中から出ておいでになつたんですか、ね、ね、ね？』と言つて尋ねました。二枚のお札は默つて年雄君の掌の下から逃げ出さうともがいてゐました。年雄君は氣味が惡くなつて、『お母樣、大變です。お札が守袋の中から這つて出て、逃げ出さうとしてゐます。』と大きな聲で申しました。『ナニ、お札が？』とお母樣はお部屋から飛んでお出でになり、『それをお前が押へつけてゐるの。まあ、お前が餘り粗末にするからだよきつと。』と、そつと年雄君の掌の下から二枚のお札を出して押藏いて、『もう決して粗末には致させませんから御堪辨なさつて下さい。』とお詫びを言つて、守袋の中にお入れになりました。年雄君は守袋を粗末にしたことをはじめて後悔して、ぢきに首に掛けましたとさ(をはり)

左甚五郎

第六十八席

桃川如燕口演 浪上義三郎速記

甚五郎は奥から出て參りましたが 甚『オヤ、こりやア何うも棟梁、 三『ヘイ、如何でげすかお細工の所を鳥渡伺ひに出ましたが 甚『エ、遣つて居ます、一生懸命で遣つて居ます、エ、三五郎さんの前ですが俺が仕方を遣つて居る內は此の通り戸も開けねヘで、內から締りがしてあるんだ、人が來ると氣が散つて仕事が思ふ樣に出來ねヘもんだからこんな按排にする、貴下なら貴下が門口へ來て訪づれると仕事を止めてまア恁う遣つて居る、それだけ仕事が遲くなると恁う云つた樣な譯で、決して捨て置きやアしません一生懸命で遣つて居ります、是から棟梁催促に來ねヘたつて、ナニ、仕事を投つて置きやアしねヘ、來なすつた時に開けて挨拶をしたり何かして、それだけ遲くなつて構はないから、門口が閉つて居たら未だ出來ねヘんだと恁う思て、出來てしまへばもう俺のことだ表をおツ開いて居ますからね、直に知れますから何うか閉つて居たら未だ出來ないと思つて直にお歸りを願ひたい 三『それは何うもとんだお邪魔をいたしました、ヘイ御免なさいまし』と、又門口をピタリと閉てしまうと、又向ふの端の障子を少しばかり開けて中へ入つてピタリと閉てしまつたから、仕事をして居るのだか寢て居るのだか變な斷梅だと考へて三五郎は歸つた、其の後來て見ると戸が閉つて居れば、あゝ未だ仕事をして居るのだと思ふから、邪魔もしないで三五郎が歸る、併し仕事が遲くなるといふから、尋ね／＼此家へ來ると云ふのは、どんな手運びになつたかと思ひ、又作事係の本淨寺樣からは『何うだにもう出來たかへ、龍は何時に出來上るか』とお尋ねになる、三『エ、一生懸命にやつて居ますから、ナニ、もう少しばかりで……』と自分がやつて居ないのだから少しばかりだか何んだかわからないデタラメを云つて、譯も判らないチョイ／＼行くが戸が閉つて居る又歸る、馴れて居る魚屋だの酒屋の御用なぞは『何んか御用はございませんか』と聲を掛けながらヒョイと見ると、仕事をして居るから叶けないと思つて行つてしまう、魚屋が『今日は鮪の良いのがございますが、棟梁御身は、オヤ／＼仕事だ、仕樣がね』と歸つて行く、甚五郎といふ人は仕事にかゝると大精進で酒一滴も用ゐないと云ふ位だから酒屋の御用でも魚屋でも仕事をして居ちやア叶けないと、がツかりする。偖其の中に三五郎が何うだか來て見ると、表はすつかり開いて居る、喜んで偖はもう仕事を仕上げてしまひなすつたか 三『ヘエ棟梁今日は 甚『オヤ門跡棟梁、さアお上んなさい 三『ヘエ、如何でございましたか 甚『鳥渡ね今朝一とつきり遣つてもうそれですつかり出來上つた 三『何うも有難う存じます、何うかと思つて、心配をいたしました 甚『自慢ぢやアねヘが、まア可なり宜く出來たつもりだ、俺は少し壽命を縮めても、棟梁の恥にならねヘ樣にと拵へ上げた 三『心に掛けて有難う存じます、今日頂いて參つて 甚『それぢやアねヘ棟梁、出來て居るのだが持つて行くのには大きな物でもあるし、それから猶且門跡樣に是はお前さんが拵へるつもりで何にしてあるんでせう 三『ヘエ』 甚『他人目にかゝつてはまづいからね、今夜刻限を計つてお在なされば麻風呂敷の大きいのを持つて來なさい、宜い鹽梅に是を包んで上げますから 三『何うも御親切に有難うございます、それでは然う云ふことにいたしませう』と其儘立歸りました

無病長壽を希ふ人ありや 然して津村兄弟商會の人參エキスを知らざる人ありや 人參エキスに親しまる方は一生健全也 京城本町一丁目四一〇八 津村兄弟商會出張所

◎…本欄…賞券を呈す但何告何號と明記に限る◎宛名は京城日報編輯局讀者文藝係

京城日報 讀者文藝

賀古病院 京城明治町一丁目 電話二四番 內科 小兒科 入院隨意 無料施療す 每日五名を限り 醫學博士 古城憲治 岡山醫學士 上野亮藏

保險安全 ちゝや 勸業貯蓄債券 高價買入 明治町二丁目八十七番地 支那領事館前通 南質店 別に廉價に預る

十月三十日 舊九月十五日 乙巳 九星 一白 北 危 大安

[illegible]

演藝案内

京城壽町 壽座 電話五七八番 東京新時代劇 愛澤正義一行 [illegible]

京城 有樂館 [illegible]

櫻井町 大正館 電話八七三 [illegible]

京城明治町 浪花館 電話二六〇 [illegible]

京城本町 壽館 電話一〇五〇 [illegible]

黄金館 電話二六三・六六七 [illegible]

水の滴るやうな艶美しい黒髮とする

ホーカー美髮液

□御參考□
髮の色艶をあくまで美しくする
いつも艶々しい濡羽色となる
ちゞれ毛クセ毛がなほる
枯らず、いつもサラ／＼とし
フケが出なくなり、逆上るをなし
毛髮の發育を補け
拔毛を止め香水代用となる

定價 大三十五錢 小二十錢 送料 內地 [illegible]

全國到る處の小間物化粧品店藥店に販賣す、若し品切の節は本舖宛直接御注文を乞ふ、三錢切手代用にて御注文を乞ふ

本舖 東京神田和泉町 堀越嘉太郎商店

汽車

京釜線（南行）　同（北行）　釜連絡　湖南線（南行）　同（北行）　京義線（北行）　同（南行）　京仁線　京元線（北行）　同（南行）

ライオン歯（は）磨（みがき）

慈（じ）善（ぜん）券（けん）引換殘餘金第拾六回決算報告

一　金貳萬〇八百九拾壹圓四拾六錢九厘　但　自大正五年壹月至同　拾貳月　滿一ヶ年間ライオン歯磨（小袋入）貳千〇八拾九萬壹千四百六拾九袋賣捌に對比の慈善券金額

內　金九千八百九拾圓參拾五錢八厘　但　自大正五年壹月至大正五年拾貳月　滿一ヶ年間ライオン歯磨慈善券付空袋九百八拾九萬〇參百五拾八袋引換金額

差引　金壹萬壹千〇〇壹圓拾壹錢壹厘

內　金壹千六百貳拾貳圓八拾貳錢　自大正六年壹月至大正六年八月廿五日　ライオン歯磨慈善券付空袋百六拾貳萬貳千八百貳拾袋引換金額

差引殘金　金九千參百七拾八圓貳拾九錢壹厘

右金額左記之通り分配致候也

金額	所在地	名稱
金參百貳拾圓	東京市小石川區大塚町	東京市養育院
金參百貳拾圓	同　京橋區銀座二丁目	救世軍慈善事業部
金參百貳拾圓	岡山市門田屋敷	岡山孤兒院
金參百貳拾圓	大阪市[illegible]內	大阪弘濟會
金百參拾五圓	東京市芝區芝公園	日本赤十字社
金百參拾五圓	同　麹町區飯田町	愛國婦人會
金百參拾五圓	同　牛込區市ヶ谷河田町	帝國軍人後援會
金百參拾五圓	大阪府[illegible]村	博愛社
金百參拾五圓	大阪府[illegible]村	大阪汎愛扶殖會
金百參拾五圓	東京府下澁谷町	福田會育兒院
金百參拾五圓	東京市神田區元柳原町	東京出獄人保護所
金百參拾五圓	同　赤坂區青山南町六丁目	東京育成園
金百參拾五圓	同　麹町區[illegible]町	婦人共立育兒會
金百參拾五圓	東京府巣鴨村	家庭學校
金百參拾五圓	横濱市南太田町	横濱孤兒院
金百參拾五圓	同　根岸	幼年保護會
金百參拾五圓	山梨縣身延山	身延深敬病院
金百參拾五圓	名古屋市矢場町	愛知育兒院
金百參拾五圓	廣島市尾長村	廣島育兒院
金百參拾五圓	熊本市新屋敷町	熊本回春病院
金八拾圓	東京市本所區若宮町	無料宿泊所
金八拾圓	東京府目黒村	慰廢園
金八拾圓	同　巣鴨庚申塚	瀧乃川學園
金八拾圓	東京市下谷區上野櫻木町	同愛社
金八拾圓	同　四谷區鮫橋谷町	二葉保育園
金八拾圓	北海道函館區新川町	函館慈惠院
金八拾圓	神奈川縣鎌倉町	鎌倉小兒保育園
金八拾圓	前橋市岩神	上毛孤兒院
金八拾圓	仙臺市北四番町	仙臺育兒院
金八拾圓	岐阜縣揖斐郡[illegible]	濃飛育兒院
金八拾圓	豐橋市東山	豐橋育兒院
金八拾圓	金澤市常盤町	小野慈善院
金八拾圓	神戸市中山手通	神戸孤兒院
金八拾圓	松江市内中原	山陰家庭學院
金八拾圓	同　北田	松江育兒院
金八拾圓	鳥取市東町	鳥取育兒院

金額	所在地	名稱
金八拾圓	神戸市市役所內	戰役紀念保育會
金八拾圓	熊本市坪井町	肥後慈惠會
金八拾圓	靜岡市下[illegible]町	龍華孤兒院
金八拾圓	長崎市櫻馬場町	長崎盲啞學校
金八拾圓	朝鮮京城	京城濟生院
金五拾圓	東京市本郷區[illegible]丁目	白十字會
金五拾圓	布哇ホノルル	布哇日本人慈善會
金五拾圓	新潟市學校町通	新潟育兒院
金五拾圓	長野市元善町	大勸進養育院
金五拾圓	長岡市大工町	長岡臨田園
金五拾圓	同　阪上町	長岡盲啞學校
金五拾圓	秋田市[illegible]町	感恩講保育院
金五拾圓	北海道小樽區[illegible]	小樽育成院
金五拾圓	同　小樽區住ノ江	小樽慈惠病院
金五拾圓	同　小樽區奥澤	小樽盲啞學校
金五拾圓	靜岡市井之宮	靜岡ホーム
金五拾圓	岐阜市梅ヶ枝町	岐阜訓盲院
金五拾圓	名古屋市[illegible]町	名古屋養老院
金五拾圓	津市丸ノ内	三重濟美學院
金五拾圓	大津市三井寺內	滋賀縣育兒院
金五拾圓	金澤市上[illegible]町	金澤育兒院
金五拾圓	京都市二條	平安德義會孤兒院
金五拾圓	同　聖護院町	京都救濟院
金五拾圓	同　岡崎町	平安養育院
金五拾圓	大阪市中ノ島六丁目	大阪婦人ホーム
金五拾圓	同　天王寺細工谷	大阪約翰學園
金五拾圓	大阪府天王寺村	大阪養老院
金五拾圓	神戸市奥平野村谷	神戸愛隣館
金五拾圓	神戸市下山手四丁目	神戸養老院
金五拾圓	同　荒田町四丁目	神戸報國義會
金五拾圓	岡山市花畑	岡山博愛會
金五拾圓	岡山縣[illegible]町	甘露育兒院
金五拾圓	廣島市大須賀	廣島修道院
金五拾圓	山口縣長府町	防長孤兒院
金五拾圓	佐賀市水ヶ江町	佐賀孤兒院
金五拾圓	長崎市浦上山里	長崎浦上養育院
金五拾圓	鹿兒島市[illegible]谷町	鹿兒島養育院

金額	所在地	名稱
金五拾圓	松山市府中町	愛媛慈惠會
金五拾圓	丸龜市府中	海南慈善會
金五拾圓	高知市本町	高知慈善協會
金五拾圓	臺灣臺北	臺北仁濟院
金五拾圓	東京市深川區西平野町	勞働共濟會
金五拾圓	大連市[illegible]	大連慈惠病院
金五拾圓	埼玉縣浦和町	埼玉自彊會
金五拾圓	水戸市[illegible]	水戸保護會
金五拾圓	滋賀縣膳所町	滋賀縣[illegible]院
金五拾圓	東京市淺草[illegible]	淺草寺救護所
金五拾圓	和歌山縣有田郡[illegible]村	和歌山有田學園
金五拾圓	沖繩縣那覇區西新町	沖繩自營會
金五拾圓	宮崎縣宮崎町	日州出獄人保護會
金五拾圓	京都市東寺	濟世病院
金五拾圓	新潟市西堀通[illegible]町	新潟盲啞學校
金五拾圓	大阪市北區[illegible]町	大阪職業紹介所
金五拾圓	山口縣山口町	山口育兒院
金五拾圓	高田市中寺町	高田盲學校
金五拾圓	新潟縣柏崎町	中越盲啞學校
金五拾圓	靜岡縣駿東郡富士岡村	神山復生病院
金五拾圓	熊本市外外島崎村	待勞院
金參拾五圓	東京府大久保百人町	慈愛館
金參拾五圓	千葉縣成田町	成田山感化院
金參拾五圓	前橋市内前代田	前橋積善會
金參拾五圓	高崎市下横町	高崎育兒院
金參拾五圓	福島市[illegible]町	福島育兒院
金參拾五圓	仙臺市元寺小路	東北慈惠院
金參拾五圓	山形縣鶴岡町	鶴岡育兒院
金參拾五圓	弘前市新寺町	東北育兒院
金參拾五圓	豐橋市東山	豐橋盲啞學校
金參拾五圓	三重縣桑名町新町	九華育兒院
金參拾五圓	富山縣堀川村字西中野	富山慈濟院
金參拾五圓	福井市尾上仲町	福井縣育兒院
金參拾五圓	横濱市根岸町字竹の丸	横濱基督教訓盲院
金參拾五圓	島根縣濱田町	石見慈育院
金參拾五圓	大分市東新町	大分育兒院
金參拾五圓	長崎市東中町	長崎孤兒院

金額	所在地	名稱
金參拾五圓	鹿兒島市武町	鹿兒島[illegible]
金參拾五圓	高松市二番町	讃岐學園
金參拾五圓	徳島市[illegible]	阿波國慈惠院
金參拾五圓	鳥取縣倉吉町	因伯保兒院
金參拾五圓	東京府下澁谷	報恩會
金參拾五圓	盛岡市加賀野	盛岡孤兒院
金參拾五圓	東京[illegible]	東京養老院
金參拾五圓	京都市姉小路通	京都盲啞保護院
金參拾五圓	大阪府今宮村	大阪自彊館
金參拾五圓	奈良縣丹波市町	天理教養德院
金參拾五圓	長野市西後町	長野盲啞學校
金參拾五圓	大分市大分町	大分盲啞學校
金參拾五圓	東京府下[illegible]	東京感化院
金貳拾五圓	神戸市[illegible]	神戸訓盲院
金貳拾五圓	滋賀縣彦根町	彦根訓盲院
金貳拾五圓	奈良縣[illegible]町	大和育兒院
金貳拾五圓	若松市[illegible]小路町	會津孤兒院
金貳拾五圓	水戸市上市仲町	茨城孤兒院
金貳拾五圓	前橋市神明町	前橋育兒院
金貳拾五圓	福島市宮ノ下町	福島訓盲學校
金貳拾五圓	福島縣郡山町	郡山訓盲學校
金貳拾五圓	盛岡市紺屋町	岩手育兒院
金貳拾五圓	新潟縣小千谷町	魚沼育兒院
金貳拾五圓	同　中頸城郡[illegible]村	[illegible]孤兒院
金貳拾五圓	北海道札幌區南七條西一	札幌孤兒院
金貳拾五圓	靜岡縣[illegible]原町	富士育兒院
金貳拾五圓	愛知縣岡崎町	岡崎盲啞學校
金貳拾五圓	四日市市濱田	三重感化院
金貳拾五圓	福島縣須賀川町	須賀川幼兒保育[illegible]
金貳拾五圓	青森縣八戸町	東奥盲人學校
金貳拾五圓	埼玉縣川越町	川越[illegible]所
金貳拾五圓	千葉縣千葉郡都村[illegible]	千葉縣[illegible]
金貳拾五圓	埼玉縣北足立郡[illegible]谷村	埼玉育兒院
金貳拾五圓	宇都宮市戸祭町	下野三樂園
金貳拾八圓廿九錢壹厘	千葉縣安房郡北條町	千葉照育兒園

合計金九千參百七拾八圓貳拾九錢壹厘

拜啓　大正五年度ライオン歯磨小袋入添付の慈善券引換に就ては曩に謹告致し候通り、『大正五年十二月限引換』とあるものは愈々去る八月廿五日を以て全く締切申候仍て該慈善券引換未了殘餘金は前例に依り慈善事業に喜捨すべく各方面に向って嚴密なる調査を遂げ候上前記の如く割振決定致し直ちに其寄附萬般の手續を終了仕候茲に謹んで第拾六回の決算報告を明かにし併せて内外に亘る愛用者各位の深大なる御同情を感謝し更に倍舊御愛顧の程を伏して奉冀候　頓首

二伸　ライオン家庭用歯磨大袋入は一般各位の御意に協ひ候と相見え、近年御需要頓に激増致し、慈善券付小袋入の販賣額を凌駕するに至り候にも拘らず、倘ほ斯くの如く慈善事業に喜捨するの運に相成候は全く各位眷顧の賜に特に御厚禮申上候

大正六年十月

ライオン歯磨本舗

東京市本所區[illegible]町六番地　支店　大阪・名古屋・漢口

小林富次郎

京城日報

二十九日朝刊 (朝夕刊併せて八頁)

發行所 京城太平通一丁目 京城日報社
發行兼編輯人 奥田[illegible]
印刷人 小川三之介

支那漫遊

蘇峯生

星が浦

十月七日午後は、星が浦に遊べり。大連を距る西南二里許、電車あり。予等は途中迄自動車にて行けり。電鐵經營の櫻田樹村の、道傍に發生しつゝあるを見附け、拉し去れり。東京に比すれば濁し。天は京城程に澄み渡らざるも、遼東名物の風もなし。星が浦は黑石礁の背名に、日本名を附したる也。滿鐵は海濱十萬餘坪の地をトし、遊園的に經營し、其中にホテルあり貸別莊あり、雅にして俗ならず。野菊咽ひ、コスモス開く、散歩には好適地也。而して其の灣形、島容、何となく我が湘南の逗子、葉山を、髣髴せしむるものあり。但だ此處にての見物は海色也。其の藍碧の色は、天色に比して、更らに幾倍の濃厚を加ふ。此の海色は逗子にも、鎌倉にも見るを得ざる也。小春日和にて、逍遙の際は、外套を脱する程也。されど或る年弱き外國婦人が、突如として海中に飛入り、泳ぎ出したるには、胖易せり。斯る婦人の亭主たるこそ、果報者なれ。歸途電車中にて、幾多の釣客と同乘せり。今日の日曜を機として、何れも此處に磯釣に出掛たる也。

滿湖秋水碧於藍。帆外斜陽影滿浦。吾亦江湖一竿客。却從
浦一檍 湘南

想ふに我が老龍庵の門前、老松の陰下に來り群る沙魚も、今頃はさぞや肥ゆたるならむ。風に臨んで坐ろに釣魚の好時節を、遐したるを憾む。

大正六年十月八日午前六時於大連

大谷光瑞師

予が二樂莊に於て、大谷師と相見たるは、未だ桂公の在世中なりし也。即ち大正二年の首夏、病氣保養の爲め、瀬戸內海航游の途次に、てありき。當時予一首を口占して、師に贈りて曰く、

空翠染衣松徑微。清談半日世情非。來燒首望山上。黑霧濃雲挾雨飛。

結句は全く實際を描きたる也。然も思ひきや讖を作して、間もなく本願寺事件出來せんとは。而して師と恆に紙上に相見、心上に相見たるも、相ひ面せざる三年餘。此の期間に於て、傍人は唯だ師が放浪の快遊を、事としつゝありと思はむ。されど師が如何に精神、物質、內的、外的の困阨と戰ひ、風浪と戰ひ、懊惱と戰ひ、煩悶と戰ひ、且つ戰ひつゝあるかは、今回相見て、師が兩鬢の霜に徵證せらる。師意氣自若、膂力正さに剛。伉爽、偏強、肯て人の憐を受くるを屑とせざるも、知心者に於て、豈に一掬の同情なかる可ん哉。

師の如きは瑕瑜相掩はざるの人、其の缺點は、却てより多く暴露せられ、其の眞價は却て動もすれば、此が爲め蔽沒せらる。然も總てを乘除するも、師は實に思想に於ても、見識に於ても、他の門牆に倚らざる、頂天立地の大丈夫也。其の氣宇の大にして、其の志趣の遠に、而して學問の洽博なる、眞に現代の偉器たるに庶幾む。人或は今日に於て、大谷光瑞師を品隲す。されど師は大なりと雖も未成品也。其の猶を被りて、今尚ほ本願寺の法主となる耶。或は再び本願寺の法主となる耶。將た政治に驅騁して、一個の雄將とならん耶。或は世界の行脚客として、天邊の神龍、僅かに殘甲、片鱗を人間に留むる耶。空しく世人を將て閃電的人物として、嗟嘆せしむるに止まる耶。或は事功に成功して、一種のセーシル、ローヅとなる耶。抑も亦た神氣縱熟、德量宏深、眞に所謂る第一流の法器となり、第一等の人格となり、汎亞細亞主義の大木鐸たる耶。以上の五者は、悉く皆な師が自から擇ぶ所に任す可し。予今回、口占して、更に師に一首を呈せり、曰く

不希帝釋五洲船。願觀來是宿緣。濟世高才無用所。蒼茫自窺已三年。

然も其の用所なきは、天が畢竟師を大成し、玉成する所以の深意なりと知らずや。師自から愛惜して可也。

大正六年十月八日朝 於大連

航空界と歐洲戰 (十)

國民飛行協會長 長岡外史中將講演

次に共同一致の精神が必要であると云ふ事を痛切に感じて來た。英吉利人は個人性の發達した國民であるから、兎角自分といふものから割出したがる。例へば從來は戰場に於て兵士が士官に對して敵愾を爲なかつた。然るに之が大分變つて來たのである。と云ふのは、上官に服從して、一致の態度で戰爭をやれば勝てるけれども、銘々勝手にやれば敗ける。彼等は今や一致共同の必要を悟り、之を率ゐる士官には衷心から敬服する風情が湧いて來た。近頃は勢力の集注が出來て來たから英軍は大分強くなつたのである。又英吉利にせよ佛蘭西にせよ人心は非常に緊張して如何なる苦痛にも堪忍ぶ忍耐力が出來て居る。日本では戰爭の結果成金と稱せられる假分限者が大分出來て、豪奢な生活を爲すものが彼方此方にある樣子だが、向ふでは會社銀行の如き、株主は無配當に甘んじて居ると云ふ實況である。兵士は戰場に於て困苦缺乏に堪へるのみならず、又家に歸りては稀なる困難に打勝つて居る。食糧に於ても英國は麥も馬鈴薯も足らない。獨逸は馬鈴薯丈はあるが、麥は一年の中二箇月不足である。是に於て獨逸國民は食糧をさへ節して居ると云ふ、英國でも肉は一週間に一回一人が三百六十匁しか得られない。斯の如く如何なる困難にも打勝つて居るのであるから戰後に於ける平和戰には充分堪得る力を養つて居るのである。其上亞米利加は非常に金を儲けて居る。昨年は百億の輸出超過、富の增進は驚く可きものである。米國は參戰するに當りて二百億の豫算を可決し、飛行機のみに三億六千萬の巨額を投じ、艦隊は七百萬噸を增す大計畫を定めた。而して、製造工場の如きは大いに儲けて居るから、今後、三年や四年損をしても構はない、東にはさう云ふ偉い勢の國があり、西には右申述べる如き何事にも堪忍ぶ競爭者がある。吾々は安閑として居られない。一時的の戰爭に敗けるのは案外恢復が速かに出來るが、平和の戰爭に敗けるのは實に苦しい、之は一朝一夕に分らないが國家は非常に衰弱して了うのである。以上航空界と歐洲戰爭に就いて愚見を開陳したが、諸君は何等不自由無き此の大陸の京城の地に於て蟄閉されて居る。隨つて世界の趨勢の如何なるものであるかは充分御承知と思ふのである。どうか今後に於ける航空界の發達の爲めに御盡力を願ひたい。同時に此の戰爭の教訓を利用し活用し、世界の活舞臺に立つて彌々益々吾が日本帝國の地位を安固ならしむる樣御努力を冀ふ次第である。尚此の機會に於いて、諸君の御健康を祈ります(完)

◎朝鮮文藝社雅筵上(二)

于堂 尹喜求

白雲如衲愛君詩。手錄端來不勝披。
蕭寺中年聯兩鬢。藝林淸夜倒深巵。
山光帶水渾身是。道氣兼禪到處宜。
一點靈犀無萬里。分蹤何必問椒涯。
歟匆靑山萬卷樓。差池花木傍溪流。
梅余渲染彭翁句。着我中間五百秋。

麥園 鄭丙朝

尋常談次亂題詩。字々淸妍錦繡披。
釵老放人欣拭眼。對君此夜莫停巵。
眉稜橫放峨嵋氣。聲齒偏宜冷淡宜。
明日江將休悵惘。上敎魂夢到天涯。
天晴染翰有登樓。予定花眼虎首流。
大彭思謂忝神境。領底蕭森赤葉秋。

梅下 崔永年

罪聚西山一小樓。葉聲瑟々雁聲流。
梅公畫意彭公筆。移得金剛萬二利。
歟本黃花一本詩。幽襟好向晩風披。
秋天行李芙蓉劍。考境生涯竹葉巵。
甚里知心分小合。百年多病醉塗宜。
明朝送別想波暮。夢裡雨涯興小涯。

雲山 白潤洙

晉以淸秋杜老詩。如天夫劉驛雲披。
遍游勝地餘雙屐。適有黃花共一巵。
片夢遙懸還苦樹。寸心小照端宜。
梅含疎瘦前期花。且待春風滿水涯。
余坐西風郎小樓。信歟似習足淸流。
和送殷勤長依隈。一天如水雁聲秋。

誰 (108)

布施生譯

二人は保部家指して走つたが、邸の近傍へ來ると利介は賴太郎に向ひ『おい短銃を持つてるか』『持つてゐる、さあ遣附けやう』元氣よく言つたかと思ふと彼は復二の足を踏んで『いや一人は老母一人は友人だ、それに此樣事をするのは厭だ〳〵、己は斷る』『馬鹿』利介は捜懸りそうな顏をして怒つた、賴太郎は死物狂ひになつて門へ飛込むと玄關の呼鈴をやけに鳴らし出てきた取次に『奥樣は』と尋ねて『お部屋にいらつしやいます』と云ふ返事を聞くと後をも見ずに其儘階子を驅上つた。

寢れた顏は沈著かない眼を光らせて慌しく、飛込んできた賴太郎の姿を見るに夫人は愕きさあざうしたの。』と立上つた、其聲には母の慈愛が溢れる程に顫つてゐた、賴太郎はそれを聞くと頭の先から足の先まで電氣で打たれたやうに感じて思はず立竦んだ。しかし考へてみると自分はもう舞臺に上つて今や肉親の相手に一狂言やる處である、今更下手な事をしては面白に關はる、賴太郎はさう思ふと假に惡胴胸が据つた、實際彼にこう云ふ性質があるのを看ぬいたればこそ利介は賴太郎に此一役を振當てたのであつた、賴太郎は名優の所作もこうは往くまいと思はれる程悲しげな顏容をして聲を沈ませ『母樣もう今度で僕の背勞はお仕舞でしやうよ』。賴太郎がこんな調子でこんな事を言ふのは從來にない事である、夫人は慌てゝ、彼の傍に擦寄つて殆んど頰を擦付けぬばかりに彼の顏を覗込みながら、『どうしたの』と心持強く聞いてみた、賴太郎は盛聲を沈ませて『母樣僕は駄目ですよもう母樣や父樣の子と呼ばれる價値はありません』夫人は之には頭を振つて承認を拒んだ、賴太郎は構はず言を續けて、『いゝえ、僕は自分でよく知つてます、僕は惡い人間でしかも馬鹿です、僕は時々自分で自分が分らなくなる事があります、多分兒供の時から他人の手で育てられて誰も僕を諫へてくれる者がなかつたからでも有りましやうか、今になつてこんな厄雜者になつてしまひました、母樣僕が始めて母樣にお目に懸つた時も最早惡癖は付て廻つて今更何とも仕方がなかつたんです、母樣に優しくして戴いて其時だけは直正に生れてから覺のない嬉しさでしたけれど、それでも僕の性質は直りません、僕は一目散に放蕩を始めました、僕は—。』言ひさして賴太郎は不圖語を斷つた、賴太郎の言語の端々には如何にも斷腸の思に堪へない有樣が露〳〵と現はれて夫人はそれを遮る暇もなく、末には態度思ひ惱ない悲しい事を言出すに違ひないと知りつつも默つて聞いてゐる外は無かつた。

商業登記變更公告

株式會社漢城銀行水原支店登記事項中京城府南大門通四丁目七拾番地ノ支店ヲ大正六年拾月拾五日同所番地五番地ノ壹ニ移轉
右大正六年拾月貳拾六日登記ス
京城地方法院 水原支廳

法人登記公告

利川地方金融組合監事李圭儀ノ代リニ京畿道利川郡栢沙面松末里ヲ…
右變更大正六年拾月貳拾參日登記ス
京城地方法院 利川出張所

會員募集

成功は海外發展に在り海外到る處寶庫界なり有爲の士着々成功しつゝあり然も準備なきは失敗す本會は海外發展を期する者の爲め講習を行ひ必ず成功を期せしむ目的を以て海外に就職せしむる者は本會に對し貿易其他の便宜を與へ渡航準備其他特典あり會則送呈郵券二錢要
帝國植民協會 (東京市神田區小川町)

最新刊

世渡りの道 縮刷 定價一二〇
佛教概論
我子の宗教育
歐洲最近
朝鮮漢方藥植物調查書 總督府編 九〇

大阪屋號書店 京城本町電六八四・二〇八六・振京城二五七三

京日案內
△御照會の節は必ず新聞の番號を御記入ありたし
△申込後中止の節は前金返戻せず
△六回以上の御申込は特に割引
△御照會は返信附にあらざれば回答せず

普通
◎給仕 小使若干名採用 給仕十四五六歲 小使四十歲以下 希望者は履歷書持參 東洋拓殖會社京城支店

古本買入申候 電話三〇五〇番 本町一丁目(明治町筋) 野村書店 765

番外
向き社 事務所讓渡 什器雜作有姿の儘 姓名在社 766

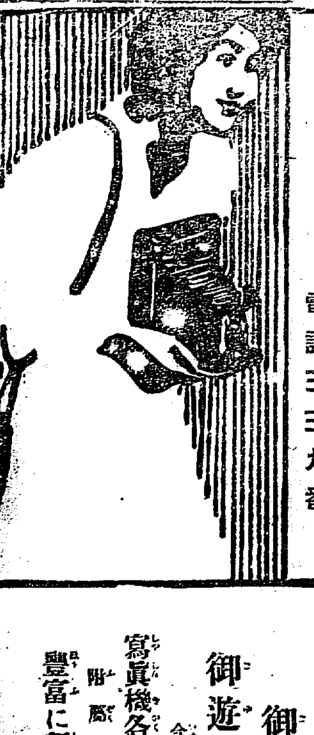
鑛物定量分析 支那領事館前通り 明治町二丁目(電話二七七一番) 田部分析所

銃砲火藥獵具 京城明治町二丁目 電話三〇二一番 支店 太田、公州 瀧川銃砲店 760

銃砲火藥獵具 京城南大門通三丁目(電話一五六〇) 本店仁川 支店青島 藤木銃砲店

銃砲火藥 獵具 京城本町三丁目 電話三〇九二番 增戶銃砲店 764

最新流行界の金鈴

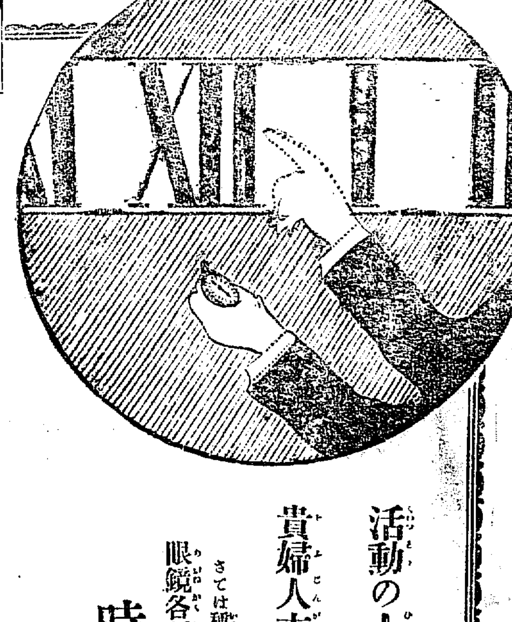


寫眞部 電話三三九番

御散策に— 御旅行に— 御遊山に—
今盛んに愛用せらる
寫眞機各種及附屬材料豐富に新輸入致候

電馳千里— 信用と名聲を有し 能く多年の乘用に耐ふる
クリスト號 ケーオー號 自轉車は
諸官衙及著名の會社商店より 多數の御買上の 光榮を擔ひ居り候

自轉車部 電話四八〇番



活動の人に—堅牢で正確な新型の時計!
貴婦人方に—美と威嚴を高める裝身具!!
さては種々の最新流行の眼鏡各種潤澤に著荷仕候

時計部 電話長二六二番

元織居商店
京都大澤商會京城支店

●英國巡洋艦擊沈

英國假裝巡洋艦オラマ號は敵の水雷に擊沈され又英國の一水雷艇は衝突の爲沈沒せり（倫敦電報）

●獨軍進出の眞意

獨軍はエーゼル島を攻略し、リガ以北に進出せるが又後退し冬季中に防禦線を構築せんとするが如し獨軍がリガ攻略後海軍を活動せしめ露都の第一外廓線迄で進出せし眞意に就ては軍事批評家の諸說紛々たれど要するに次の如き三個の觀測に歸め得べし第一、之れを以て獨逸國內の政情緩和に資せんとせしと解するもの第二、聯合國の步調を攪拌せんとする目的を有せりとするもの第三、過般の海軍事件に基き急遽海軍を移動して騷擾の遑なからしめんと解するもの是れなり（倫敦電報）

●リガ露軍塹壕奪還

露軍はリガ方面にて攻勢を開始しスウリ、ヒンツベルグ、マノール、レンベルとの側面に於ける塹壕を奪還せり（露都電報）

●英佛兵伊軍援助

英佛兩軍の增援軍及び軍需品は今や伊太利戰線に到着せんとしつゝあり（羅馬電報）

●イソンゾ伊軍退却

獨墺軍は墺國トルミノ（ゴリヂアの北方約二十五哩イソンゾ河の左岸に在り）の北幅三十哩に亘りイソンゾ全線を攻擊中なるが伊太利軍は爲めに國境に向け退却の已むを得ざるに至れり獨墺軍は總勢八十萬にして之が總帥はマッケンゼン將軍なり（倫敦電報）

●西班牙陸相更迭

西班牙マドリットには十月十七日再び戒嚴令布かれ陸相は辭職しマリナ將軍新たに陸相に任ぜられたり（倫敦電報）

●小額紙幣勅令

三十日公布の筈

小額紙幣發行緊急勅令は愈々二十九日關係者に內示し三十日官報にて公布さるべし（東京特電）

●工兵隊編成替

陸軍省にては全國工兵大隊の編成を革むるの必要を認め來年度より現在の三個中隊を全國各師團所轄工兵大隊を二個中隊編成に革め同時に獨立工兵大隊を編成して這回師團に分掌せしむべしと（東京特電）

●日支銀行再燃

日支爲替銀行設立問題は其後久しく中絕の姿にありしが最近に至り又復日支關係者間の交涉再燃し既に其具體案を得たる由にて近く公表の運びに至るべしと昨今市中に於て日本銀行主腦者が殆ど連日日本銀行に會合しつゝあるは全く本問題のためにして該銀行の總裁には志立鐵次郎氏就任の事に內定せるやに傳へらる（東京）

觀瀾亭雜俎

蘇峯生

○人の愉快は、其の負債を拂ひ濟したる時程、愉快なるはあらざる可し。負債とは、必らずしも金錢貸借上に、限りたる事にあらず。他人より親切を受けたるも負債也、好意に浴したるも負債也、對手者は全く自覺せざるも、此方にて偶然其の慶を頒たれたるも、亦た負債也。負債は必らずしも貧乏者が、金持に向ての義務にあらざる也。時としては金持が、貧乏人に向て負ふ場合もある也。老人が少年に向て負ふ場合もある也。吾人の負債と云ふは、此の如く廣義のものと知る可し。

○更らに言ひ換ふれば、負債銷却とは、恩に酬ゆる也。凡そ世の中に恩を知り、恩を酬ゆると云ふは、美德中の大美德也。而して斯る場合に於ては、酬いられたる人よりも、酬いたる當人こそ、尤も羨む可き仕合者なれ。

○韓信が已に跨下蒲伏の辱を被らしめたる、淮陰の少年等を、楚王の都尉に採用したる場合も彼に取りては、痛快なりしならむ。されど其最も快心の一事は千金を奉じて、漂母の壽を、爲したる時たりしならむ。

○何人も長大となりて、故鄉に還り、我が少年時代の村夫子の墓前に、山花を手折りて捧ぐる場合を想像せよ。如何に無限の感慨に打たる可きよ。

○人或は忘恩を目して、惡德と云ふ、其の惡なるや否やは、姑らく措き。忘恩者は、自から好んで、人生の最大甘味を湛へたる大盃を、快喫する能はざる不幸兒のみ。

●議院建築方針

議院建築費は來年度豫算編成に際し繼續費として計上せらる可し建築の設計は追つて懸賞にて汎く設計案を募集す可く豫算確定後直に公示す可しと（東京）

●物價騰貴と地方經濟狀況（二）

京城商業會議所調查

▽忠淸北道地方

中農以上は穀價騰貴に依り收入の增加を來したるを以て物價騰貴も何等苦痛とする所無きも下層民に在りては支出徒らに增加し困難甚だしきものあり今●方面經濟に就いて述べんに

▲農家經濟 地主は元來其の收納する所の小作米を食料に供し且殘餘を換金し以て生活費に充て若くは農業資金に當つるものなるが故に米價の騰貴が其の經濟上に大なる好影響を及ぼすは論なく這般の騰貴も亦之が適例を示し爲に土地購入を爲すもの多きに至れり自作農は其の收穫物を以て食料に供し殘餘を生活費の爲に換金するものなるが故に諸物價が併進騰貴せざるに於ては穀價の騰貴は愈々好影響を及ぼすべきは自明の理なるも本年の如く物價亦騰貴せるの時に在りては收入の增加に伴ひ自作地少きか或は家族多きもの等にして比較的生活上の餘裕に乏しきものは少からざる困難を感せり、小作農は非常なる打擊を受け年來の豐作と副業に因る收入增加とにて積年の痛苦を忘れ僅かに愁眉を開きたるに今後其の苦痛を嘗めざるべからざるに至れり乃ち貯穀少きものは春作未だ稔らざるに糧既に盡き或は山野に菜草を摘み或は二日一食僅かに春作の熟するを待つものあるが如き情勢を示せり

▲金融 金融狀況は前記各農民の經濟狀態に依り窺知するを得べし而して一般を通じて之を見れば融金多額なるべきも本春以來土地の賣買盛に行はれ他地方に逸せられたる金額二萬圓の多きに達し爲に金融の逼迫を告げ金貸業者にて貸出を中止せるものあるの狀態なり。其他種々複雜なる經濟關係存在し米價騰貴の事を以て之を測り得べからざるも總じて土地の買收が上流地主に行はれ山菜野草を摘採する婦女子激增し而して一時其の跡を絕ちたる乞食が再び村に彷徨するを見て其の實狀を推知するのみ。一面諸反物類の從來に比し二倍以上に昂騰せる結果一般住民の之が購求を爲すもの少く從つて一般商況不振に陷り金融圓滑ならず延いて細民の如き殆んど食料を得難きものありて悲慘の狀見るに堪へざるものあり

●鰯魚道の變遷

往年濟州島の鰯漁業は其水揚高十五萬圓乃至二十萬圓を唱ね同島經濟界を左右し得るのみならず全南漁業界の一勢力として認められ居たるが爰に四五年間は其の漁獲頓に減少し今や殆んど鰯漁業地としての色彩を失はんとするに至りたるより道當局に於ては從來同島鰯漁業は單に地曳網にのみ據れるを見て沖取方法に依らば或は之を恢復し得んと見込を立て昨年以來同島月亭里に根據を置き鰯沖取業傳習を爲しつゝあるも其鰯の群游稀にして成績思はしからざれば朝鮮漁業の重大なる研究問題として注目さるゝに至れり

●朝鮮郵船の成績（下）

三、南沿岸各航路

釜山、濟州島線（命令）釜山、麗水線（命令）木浦、麗水線（私營）木浦、濟州島西廻線（命令）東廻

釜山、木浦間各港荷客の增加顯著にして常に盛況を持續せり就中釜山麗水線は內地旅客の鮮人乘客引續き多數なるは本季に於ける特記すべき現象とす

四、西沿岸各航路

木浦、多島海線（命令）仁川、木浦線（命令）仁川、海州線（命令）仁川、鎭南浦線（命令）

釜山、濟州島木浦濟州島東西廻線亦次第に發達し今季同島に於ける夏鰮漁不漁の打擊は相當の影響を與へたるも稍々著しき增加を見せり

以上之を要するに當會社本季に於ける營業成績は依然良好にして修繕費其他一般費用の昂騰に拘らず收支計算上前季に優る利益を收むるを得たるも之れ畢竟時局の影響に因る一時の特殊狀態なるを以て他日の反動に備ふる必要上此際一層會社の基礎を鞏固ならしめんとし大修繕積立金、船價償却金、別途積立金等を充分にし餘力を以て職員臨時特別手當金、平均準備積立金、株主臨時特別配當金を計上せり乃ち總收入金百十六萬五千二十圓八十一錢總支出金七十一萬五千六百二十三圓六十七錢差引金四十四萬九千三百九十七圓十四錢にして此內より船價償却金十六萬五千一百九十四圓七十五錢船舶修繕積立金六萬八千五百七十七圓四十五錢建物原價償却金一千八百八十九圓六十錢を控除し益金二十一萬三千七百三十六圓三十四錢を得たり之に前季繰越金四萬五千三百五十四圓三十錢を加へたる金二十五萬八千八十九圓六十四錢の內金一萬一千圓を商法に據る準備積立金とし金七萬圓を別途積立金として金一萬圓を役員賞與金とし金九千二百十圓七十五錢を海陸職員臨時特別手當とし金三萬五千圓を配當平均準備積立金とし金五萬二千五百圓を株主臨時特別配當金一株に付金八十七錢五厘（即ち七朱に當る）金二萬二千五百圓を株主配當金（一株に付金卅七錢五厘即ち年三朱に當る）とし金四萬八千八百七十八圓八十九錢を後季繰越金となすを相當と認め玆に利益金分配案を提出するに至れり

□補助貨の不足と郵便局

公衆の注意を望む

矢野通信課長談

近來補助貨缺乏の弊は稍々鎭靜したるもの〻如く一時程には喧しからざるも今猶地方の郵便局所にありては少額の釣錢に困難する場合往々之れあり過般余の江原道方面へ出張の際の如き某局窓口にて一錢五厘の▲郵便端書を購入するに十圓紙幣を使用したるものを見たるが其他某郵便所にては五圓札にて一錢切手を求めんとしたるものありきそれを郵便局所長に聞くに斯る類例頗る多く局所員も大に當惑すること少なからずと云ふ獨り江原道方面のみならず他の方面にも此例あり過般南鮮の某郵便所にて某氏が三錢の郵便切手を購入せんとして十圓紙幣を差出したる際郵便所員は釣錢なき旨を述べたることありしが某氏は大に之れを不都合なりとして早速監督局へ宛て某郵便所にては補助貨を充分に準備せざるは其意を得ずと云ふ詰問的申告をなしたることさへあり▲補助貨拂底の爲め往々斯の如く地方の郵便局所中には釣錢に困難すること少なからざるを以て今回遞信局にては必要と認むる局所に於て左記の如き揭示をなさしむることゝなせり蓋し此揭示たるや釣錢不足の際公衆に對し切手購入を强要するにあらずして單に切手代用を希望するに過ぎざる趣旨に付特に誤解なからんことを切望す

（御注意）補助貨拂底に付郵便切手類御購入又は郵便爲替御振組みの際は多額の剩餘の生ぜぬやう現金御拂込被下度若し剩錢に差支ある場合は可成之に相當する郵便切手又は葉書等御購入被下度候 朝鮮總督府遞信局

又一面より見るときは補助貨の缺乏問題は缺乏の事實よりも弊の方より大ならずやと思はるされば一般公衆中には錢を貯きて補助貨を出し惜み或は之れが蓄積を計らんとするものすらあり京城某郵便所にての實見談を聞くに公衆中には▲一圓紙幣にて三錢切手を購入せんとするを以て剩錢なき旨を述ぶるときは直ちに三錢の銅貨を差出すもの往々之れありと云ふ之れ蓋し補助貨の出し惜みにあらざれば其の蓄積を計らんとするものなるべし尚補助貨の現流通額其の他に關しては他日更に述ぶるの機あるべし

●滿洲學事視察團 出發

總督府の主催に係る滿洲學事視察團一行三十五名は二十八日正午本府に集合諸種の打合を爲したる後倭城臺記念碑下石壇にて記念の撮影を爲せしが一行は鮮內各地に於ける教育當局者並に關係者を以つて組織し既報の如く第一部教育行政、第二部實業教育及び專門教育、第三部中等教育第四部初等教育及び社會教育の四部に分れ夫々分擔の事項に就き調查視察する事に決定、各部に各々主任を置き總督府視察官上田駿一郎團長となり之を統督すべし一行は二十九日午前九時本府に參集午後零時三十分南大門驛出發仁川に向ひ三十日仁川出帆大連に上陸し其れより順次旅順、奉天、撫順、鐵嶺、長春、本溪湖等に於ける各種學校圖書館研究所其他を往訪視察を遂ぐる筈なり一行の人名左の如し

▲上田駿一郎▲中石吉丸▲大塚浩▲樋口亮▲大山一夫▲上野竹逸▲雨宮貞造（以上第一部）▲植木秀幹▲須藤文吉▲小松兼吉▲桑島淼三郎▲大島德三郎▲岡田勝利（以上第二部）▲佐藤正作▲藤井友吉▲安藤文郎▲植田寅太郎▲大塚忠衞▲岡井愼吾（以上第三部）▲小松久夫▲河合精一郎▲吉村貫之▲中村傳治郎▲渡邊坂太郎▲竹內周吉▲林虎藏▲堀摠次郎▲松野紋治▲圓城寺澤次郎▲福岡貞平▲井上壽三郎▲井上圓平（以上第四部）▲團長上田駿一郎▲庶務中石吉丸、遠藤德郎、市川繁次郎、小杉彥治（以上計三十五名）

●南滿製糖着業期

南滿製糖株式會社に於ては既に器械其他の据付略完成し十一月初めより愈々製糖に着手する筈なるが差當り甜菜のみにては事業進行上差支を生ずるの事情もあり旁々南洋よりの粗糖を輸入し漸次甜菜製糖に着手すべしとの事なり

●川上理事歸期

二十八日夜歸京の豫定なりし川上東拓理事は木村課長一行と共に事務の都合上沙里院より海州に向ひし由にて廿八日海州一泊更に延安方面を視察するもの〻如ければ歸期は三十日頃となるべし

●東京商議員出發

東京商業會議所滿鮮支那視察團山科禮藏氏一行は二十八日朝自動車を驅りて仁川を視察し同日歸京二十九日朝南大門發列車にて北行す可し

●釋尾旭邦氏歸京

支那各地視察中なりし朝鮮雜誌社々長釋尾旭邦氏は二十五日上海より大連着二泊の上二十八日午後七時三十分南大門驛着列車にて歸京せり

●生牛輸出旺盛

昨今內地に於る生牛の需用增加し價格亦昂騰の狀なるに依り釜山附近の生牛は素晴らしき人氣にて東萊、梁山、密陽其他とも生牛の集散夥しく斯りの好況にあり此の有樣にて推行く時は本年の釜山移出牛は或は二萬二三千頭に達せんかと觀測さる

人事消息

▲柴田榮吉氏（三井物產會社員）二十八日夜入京

▲北野宇平氏（神戶護謨會社重役）二十八日夜入京京城ホテルへ

▲小松久雄氏（平壤女子高等普通學校教諭）二十八日夜入京不知火旅館へ

▲永原三井物產安東支店長 二十八日夜入京山本旅館へ

▲久水三郎氏（外事課長）二十八日開城に往復す

●百聞百種

獨逸にリガ灣を取られた當時の露都は却々大騷ぎをやつたらしい▲第一ツエッペリンの襲來を恐れて直に防禦策として▲市中の街燈は十字街に限り其れも金屬性の笠で上を蔽ひ一方を黑布で隱し▲而して若しプロペラの音が聞へたら電車は公園か何かの暗闇へ驅け込み▲乘客は何處かの暗闇へでも可いから潛り込んで凡ての運動を中止せよと市役所から嚴達した相だ▲其れでもまだ安心が出來ぬと見へてトット莫斯科へ逃る事にした▲が、若し獨逸が愈々露都攻擊をやろうと思へば莫斯科だつてペトログラードと共う大した相違はあるまい▲頭を多く使ふ者は早世すると云ふが學者に早世者の多い事は爭はれない▲其中でも文學者が一番早いと云ふ證據は明治二十一年初めて學位令を布かれ學位を授けられたものが▲法、醫、文、理、工の各大學先生等各十人中▲文學博士の八人即ち小中村、重野、加藤、島田、外山、黑川、川田、中村の諸氏は悉く故人となつて殘つて居るのは南條、末松の二氏のみである▲次は法學者で六人が故人となつて四人殘り次が理學者で五人故人となつて五人殘つて居る▲其の次が工學者で四人故人となつて六人は健在▲一番死亡率の少いのが醫學者で▲池田、橋本、三宅、高木、大澤、田口、佐藤、緒方、佐々木、小金井の十博士中故人になつたのは橋本、田口のたつた二博士のみである▲矢ッ張りお醫者樣丈けある

●朝鮮の捕鯨業

最近朝鮮の捕鯨場を視察したる東[illegible]蔚山灣も將來有望なるを見越し著手したるに意外にも好成績を占め[illegible]末迄千五百頭を捕獲する見込なり[illegible]長箭里は京元線に通じ交通頗る便[illegible]地內地人の獨占的事業に屬し居れり朝鮮の特產たる明太魚の漁業は秋期[illegible]旺んにして風土の關係よりして內[illegible]

●安東縣より

▲安東神社[illegible]多數を招待し祝賀會を開催すべく準備中なるが午前は聖影拜賀式を擧行し午後は外國人を招待し[illegible]一般に栽培の成績不良なるも[illegible]鉢の出品を見るに至るべしと▲合名會社設立 安東在住有力者にして松[illegible]目的は木材賣買、製材製箱及び木材の保管並に木材に關する附帶事業なりと▲國民飛行會支部[illegible]國民飛行會長長岡中將[illegible]公司理事長永田正吉氏、安東領事[illegible]森安三郎氏、民團議長中野初太郎氏、手塚正金、久我朝鮮支店長、渡[illegible]

●疑しい頓死

安東縣舊市街永安後街居住硝子製造業寺田巳之助（三七）內緣の妻大阪市東區東[illegible]

陸軍一等軍醫田部井進先生編 徵兵檢查受檢者心得及陸軍志願者案內

兵事顧問 一切の

編者は多年陸軍に奉職し徵兵に關する諸法規を研究せられ壯丁諸君の特に心得べき事、徵兵適齡にある心得より檢查受檢方並に寄留地檢查を受けんとする者、猶豫を出願せんとする者の心得、手續等一切を網羅し遺憾なく、且つ合格者の入營前後の心得、一年志願兵、トラホーム及花柳病豫防法に就て詳述せられ其他、軍醫、藥劑官、主計、獸醫志願及幼年學校、砲兵諸工長、軍樂部志願者の入學手續、試驗課目等、本書を繙かば一目瞭然たるべく、徵兵適齡者、入營者、陸軍士官志願者に敢て薦む

定價金四拾錢 送料五錢 二百五十頁 振替東京四一〇三 修學社發行

來る十一月一日より當局線（湖南、京元、咸鏡線を除く）列車運轉時刻を改正し從來の釜山安東間急行列車を奉天まで延長いたし候

釜山奉天間 直通列車運轉（每日二回）

直通列車には晝間食堂車、夜間二等寢臺車（安奉線は一等に限る）の連結あり、釜山長春間鮮滿急行列車は從來の通り一週一回運轉いたし候

南滿洲鐵道株式會社京城管理局

文藝俱樂部臨時增刊 探偵[illegible]くらべ

一流大家 講談・落語の競演

眞夜中の鞴…神田伯山 證據の印形…桃川如燕 鼻の探偵…柳家小さん 長者の殺し探偵…小金井芦洲 蛸のお政…桃川若燕 お絹權十郎…猫遊軒伯知 前齒一枚…悟道軒圓玉 安綱の詮議…錦城齋典山 鐘崎三郎…一龍齋貞山 榛名の捕物…三遊亭圓右 探偵小僧…橘家圓藏 椽の下の犬…三遊亭金馬

―特別讀物― （一）喋はれ物語…巖谷小波 （二）○さん…靑々園 （三）右馬吉…中內蝶二 （四）人質の女…岡鬼太郎 （五）茶畑…出田榮介 （六）大正船幽靈…武田鶯塘

はりまぜ行燈 お遊び諧謔 ふところ帳 藝界女の腰…森曉紅 雜錄 會社…東京迷信巡禮

定價一冊金三十錢 郵稅二錢 （十月十五日發行） 東京本町 博文館發行

年中行事（清秋）

座敷は襖、障子を建替へ、居間には鳩居堂の梅か香を炷く

竹筒入 五十錢以上 郵稅八錢 大壺二個函入 八十錢 送料〃

宮內省御用達 熊谷鳩居堂 大日本京都寺町 フリカヘ大阪六三八

藥劑師の責任

京城本町四丁目櫻井町角 藥劑師 宮本吉次 電話三二

當藥局特約品 皮膚病藥 ピチロール 新脚氣藥 ブラノーゼル 消毒防臭藥 アイゼル液

千粒堂藥局

博多壽座に於て大好評 三日間日延の爲遲れ昨日到着 本日より上場

讀賣新聞連載小說 新派大悲哀劇 連鎖 月之都 親はなくても子は育つ全篇すべて血と淚

活劇 怪赤塔 天活獨特新撮影 舊劇 蟇飛大助 大正館にて永らく御馴染の辯士出演蟇飛大助相勤め申候

二十九日より 黃金館

專賣特許 船津式繩叺機械

大邱府元町二丁目 東屋商店

特約販賣人募集 各道廳 各郡廳 朝鮮各道苗圃 東洋拓殖會社 各郡繩叺改良組合 御用達 御希望の方は往復ハガキにて御照會被下度候

模範 牛乳 ニウソ 洗粉 石鹼

京城蓬萊町四丁目 東亞牧場 電話五二二番 場主 肥塚正太

（明治三十九年九月十日第三種郵便物認可）

[illegible]努めたる結果は其の捕獲高も漸次增加し來たりたるが更に慶尚南道[illegible]居れる子の關係せる東洋捕鯨會社にて捕獲せる本年二月より十月現在の數は千百三十頭にして[illegible]れり朝鮮總督府に於ては捕鯨業の發達を計りたる爲か年々發展し[illegible]けて盛んに漁獲に從事する如し（下關通信）

[illegible]日の天長節祝日を期し[illegible]於て菊花品評會を開催すべく準備[illegible]天長節祝日には例年の如く[illegible]中なり而して本年は例年に比し一[illegible]

[illegible]演會開催の旨は既報の如くなるが其の結果安東に其の支部を設立すべく決定し理事としては永田採木[illegible]みなりと[illegible]果廿六日迄に既に百餘名の入會者あり尙ほ續々申込者あるべき見込[illegible]疑はしき點あるより安東警務署にては檢視の上屍體は解剖に附[illegible]

●戰ひに倦んだ露國民

女優の色香に溺れたケ氏の昨今

◆平和は絶對の要求なり國民の生活を保證せよ◆

露國に於ては一部の智識階級は獨逸軍破滅亡の秋を以て平和到來の時機となし戰爭繼續の止む可からざる事を主張して居るが國民全體は既に戰に倦で平和を熱望し勞兵會の如き

◆軍國當面の責任者迄が銃を揃へて戰爭を呪咀して居るのであるから勢ひ軍隊の士氣は頽廢し國民の元氣は衰へざるを得ないのである一說に依ればリガ戰の際の如き戰意無き露軍は獨逸兵の襲擊と聞いて慌てふためき息をもつかず退却した然るに敵の追擊が無いので再び取つて返した時は既に

◆リガ一帶の地は獨軍の手に占據せられて居つたとの事であるが國防上の重要地帶を十七箇師團の大兵を以て固めて居り乍ら負傷死傷合して僅かに六千名を出したのみで脆くも獨軍に一蹴し去られしに至つては如何に軍紀の頽廢して居るかと疑はれやうそれのみで無い國民全體は領土侵略の意志が無い以上戰爭を直ちに中止して

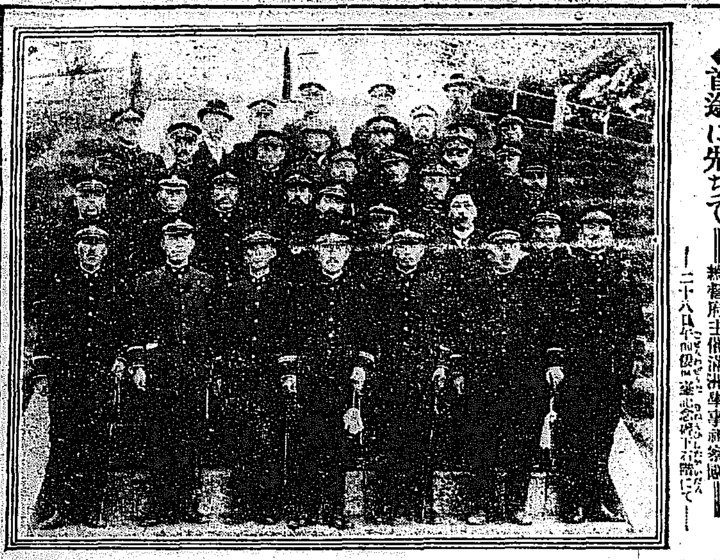
◆國民の生活を保證せよ我等はコンスタンチノーブルも償金も必要でない只平和其の者が絶對の要求であると叫び甚しきに至つては勞兵會機關新聞中の過激なる者は戰爭を繼續すべき意志を有する現內閣を斃せ英米佛伊の聯合國民を屠殺せよ何となれば吾等の眞の敵は獨逸に非ずして狡猾なる聯合諸國と此れが傀儡たる政府となればなりなど書立て頻に

◆平和熱鼓吹に努めて居るが此に至つては自由中審の猛者も亦言ふに忍びざる者がある、只吾々日本人として大いに注目すべきは彼等が依然として日本人に對しては好感を有して居る事と誤偏なる日本出兵說に及べば彼等は極を揃へ口を極めて日本は平和の爲めに一兵を派遣すべからずと叫んで居る事で此の一事に依つて觀るも如何に彼等が平和を望つて居るかが窺はれやう露國

◆上下の事態斯くの如く不安動搖の下にあるから自然政府は內憂外患交々臻つて手も足も出なくなり今や國歩艱難を天に向つて愬ふる者は只一部階級と政府とのみである其間にあつて一時名聲嘖々たりしケレンスキー氏は奔命に疲るゝをも厭はず軍國を双肩に擔つて居るが責任ある地位に立てば什うでも自由や平和に心醉して居る勞兵會など

◆一致する事は出來ないから勢ひ八面玲瓏主義に傾いて了ふ其處で勞兵會との乖離は日と共に激しくなり一方が戰爭繼續に反對すれば一方は其の止む可らざるを主張すると言ふ具合になつて人氣は蠶の如く盛んな者ではないが殊に一女優の美貌に囚はれてやゝともすれば冬宮の王侯を凌ぐ豪奢を極むる事もあるとかで

◆國民の反感はだんだん加つて行く樣であるが心ある人は氏の晩節を穢さうらん事を㥘つて居る（鮮銀哈爾賓支店長阿部氏談）



◆首途に先ちて——總督府主催滿洲軍事視察團——

——二十八日午前龍山驛構內にて——

●鐵蹄輕く朝霧を破つて

♣京城乘馬會の遠乘り

立花將軍も參加——隊伍肅々——長谷川總督の先著——野戰式の午餐——大雨でズブ濡れ

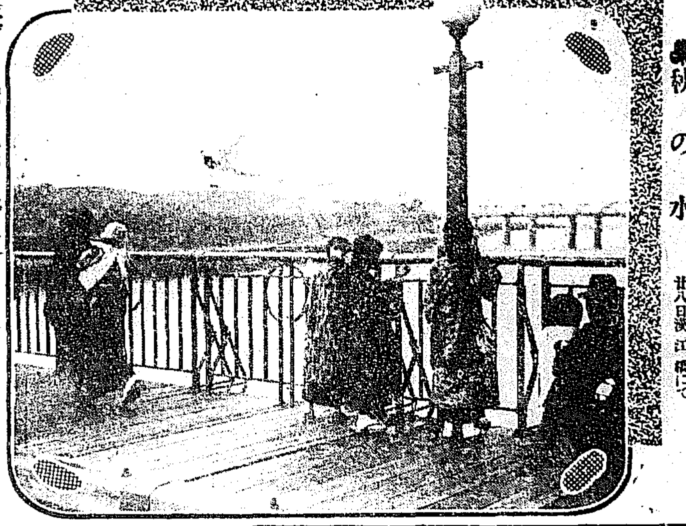
偕行社主催の遠乘會を二十八日擧行されたるが參會者は立花師團長、芳賀總督府醫院長、市川軍參謀長、早川師團經理部長、軍及び師團の參謀副官其他將校六十餘名、齋藤大島兩總督副官、陸軍副將李熙斗、同正領魚潭氏等及び京城

◆乘馬俱樂部の鈴木度支部長官、村田技師、權藤李王職事務官、鮮銀の阿部營業局長、飯泉殖銀庫、井上營業課長等十四五名にして午前九時俱樂部員は龍山停車場前廣場に參集したるが是より先き龍山側の各武官は同所に參集し居り一行を二班に分ちて隊伍肅々と祈禱の朝霧を破りて鐵蹄輕く龍山漢江橋を渡り鷺梁津より木洞を經て山路に入り前夜の雨に道は泥濘を極めたるが一行は隊伍を整へて幕巨里の

◆嶮路を踰へ迂回して牛队皮里附近より永登浦停車場の後方なる午餐會場に入りたるが此時既に長谷川總督は神田秘書官を隨へ自動車にて此處に先着し一同の勞を犒らひたり午餐會場は松林中に天幕を張りて設けられ野戰式の質素なる饗應なりしが附近の秋色今や闌にして紅葉山野に滿ち一行は歡笑譜に午餐を喫しゐたる所一天遽かに搔き曇り大雨沛然として降りしを以て總督初め一同の

◆著衣は濡鼠の如くなりしも參會者は却て之を快しとして盛んに盃を擧げて愉快なる歡笑を交ゐたるが雨も小歇みとなりしを以て午後一時過ぎ總督は自動車を驅て京城に歸りしを以て一行は午餐會場を出で歸路は別道によりて仁川街道に沿ふて進みたるが、恰かも遠近の山色烟霧に罩り遙かに漢江は帶の如く眼下に展開して雨後の水色

◆一段の美觀を添へたるが斯くて一行は仁川水道送水池の下を通り再び漢江橋を渡りて午後三時頃龍山練兵場に歸着、雨中馬首を返して散會したり



♣秋の水　廿八日漢江橋にて

◉電話需要多し

朝鮮に於ける大正六年度の電話架設數は各局合計四百三十九口なるが一般好景氣なるため申込は前年度の豫定數を早くも超過し目下の所百口以上の不足あり之等は明年度に延期の外なかるべし而して四百三十九口の取付は少數を除く外大部分終了せり因に電話加入最も多きは京城を最とし近來平壤の新設諸事業の興起等により平壤、鎭南浦、仁川等之に亞ぎ馬山も亦稍電話需要增の傾向あり但し馬山好景氣の原因は持續的のものなき如し

◉院展と二科會

二十七日より京都にて

京都の秋を彩る美術院派の展覽會は二十七日より十一月十一日迄京都岡崎公園第二勸業館にて開催すべく二十六日は請待者のみに觀覽せしめたり又二科美術展覽會は三十一日天長節祝日より十一月十四日迄同公園府立圖書館に於て開會の由にて先般東京開會の際出品無かりし會員梅原良三郎氏の作品二十點は別室にて特別陳列すると（大阪）

◉偽指輪で騙る

橫濱市雲井町一丁目生れ京城新町二丁目笠井千代吉（二三）は神奈川縣大阪府西成郡豐崎村生れ京城本町居住谷仲五郎（三三）と共謀し七月中大阪より僞造したる指輪三個八圓にて取り寄せ純金製なりと詐稱して一個三十圓以上に入質或は賣却し尙千代吉は南山町二丁目木村某の軸物二幅を他に質口ありと稱して騙取し其の他本町二丁目伊藤、壽町渡邊等より觀音像、高麗燒等をも詐取して入質消費したること發覺し兩名共本町警察署に引致取調べの上檢事局へ送らる

◉籾千圓の橫領

忠南洪城郡廣川面生れ當時群山開寧洞無職徐衡模（三八）は本年六七月の頃米面所在里趙石夏より對岸各地より籾の買收を依賴され買收資金として金一千圓を受け取りて携へ群山を出發したるまゝ京城大邱釜山などを遊び廻り悉く消費したるより告訴され衡模は群山署に於て取調べ中

◉惡代書の詐欺

三千七百餘圓捲上ぐ

大邱上町代書業蔡洙誠（三二）は實父蔡斗鎬の實印を盜捺し大正四年十一月以降本年七月末迄に達城郡求智面修理洞郭厚坤（三九）同郡城西面壯洞蔡克魯（五〇）の兩名を手先に使ひ達城郡公山面所在の土地十三筆に對する抵當權設定の登記申請をなして一切の書類の僞造を完成し之れを擔保に供したる旨の借用證書を以て▲大邱上町[illegible]太郎より百五十圓▲大邱町金貸業中山弼三松より前後五回に三千二百五十圓▲元町質業[illegible]より二百五十圓▲京町質業[illegible]より二百五十圓合計三千七百五十圓を騙取したること發覺し洙誠等三名は此の程大邱警察署の手に逮捕され取調べの上檢事局へ送られたり

◉亂暴三人男

全北高敞郡雅山面盤岩里魔白洛龍（二三）吳東南吳有根（二六）の三名は去る六日午後七時頃同面同里朴敬淳方温突にて飲酒中同里[illegible]漢九方の雇人柳基先（二三）の挨拶の仕樣が惡いと云ふ事より三人にて蹴殺したること發覺し何れも廿三日高敞署の手に捕縛され目下取調べ中なりと

◉開校祝賀 菊花品評會

本年四月開校して現在男女兒童五百數十名を有する東大門小學校にては愈々十一月三日同校にて開校式を擧行する由之れと同時に同開校式を祝賀する意味にて菊花品評會を開催する事に決定し居れるが場所は東大門小學校にて審査員田中敍一郎、山下伍道、酒見理平の三氏賞品は一等二點（銀杯）二等四點（銀杯）三等若干とし出品者は十月三十一日及び十一月一日の兩日中に搬入を終り十一月四日午前九時より午後五時迄一般の縱覽に供し十一月五日出品物引取の順序となるべし但し運搬費は自辨として保管の方法等に就いては主催者田中淸四郎及び石原留吉兩氏に於て善良なる方法を執る由なれば定めて多數の出品と共に當日は盛況を呈する事なるべし

◉古洋服が好い値に賣れる

營業者は悲んな事を云つてゐる

昨秋に次ぐに暴騰を以てした洋服類は一時昨年末に比し三割五分强の騰貴を見たが最近英國商輸入の生地が入荷した爲め

▽一寸下向きの氣勢を示したのも束の間又再びジリ上げとあつて營業者の鼻息は益々强くなつて行く計りだ此に至つては勢ひ古洋服類も狂騰的の影響を受けて昨年初冬に比較すれば實に五割乃至十割の高値を呼んで此元古洋服成金も出で兼ねまじき狀態である、此れに就いて某當業者曰く

▽古洋服商は冬物は大底三四月頃仕込んで置くから新物の騰貴に伴つて採算上では儲けて居るが昨今は品物の拂底で大分苦しめられて居る生地の騰貴に懲りて一般の需要者が古洋服で間に合せるから自然拂物は無く東京大阪方面からの移入は採算上行はれず贋流品は殆んど無く殊に最近滿鮮方面から

▽商人が乘込んで古洋服類の買聚めをして居るから强氣の材料は豐富である相場は古物丈けに一定して居ないが紺サージの背廣でも一寸したのになると、二十圓臺、フロックコートなどに至つては生地と型に依つては五六十圓と言ふ突飛な高値であるから大底の客なら吃驚して了ふ然し當業者中には

▽講和風が吹き出して根底の確かりし居らぬ內地商人が動搖して手持品を投げ出せば勢ひ崩落は免れまいと前途を危ふみつゝ有る者もあり獨逸が戰後の經營上國內に莫大の品を貯へて一日講和となれば燎原の火の如き勢を以て外國市場に放賣するであらうと憂慮して居る者もあるから全體に於て漸騰の趨勢を示し乍らも當業者の心裡は暗澹たる者がある

うわさの

二十八日夜支那より歸つた釋尾旭邦氏は濟南から上海に向ふ途中▲津浦線の曲阜驛に降りて例の孔子廟に杖を曳き更に孔子の墓所たる至聖林を訪ふた▲其の歸途夜半頃出る曲阜發南行の列車に乘らうとすると、其の列車は前から後ろまで軍隊で充滿して居て、氏が例の利かれ氣を押し通し無理に乘車しやうとしても格好の惡い支那兵等は旭邦氏の肩書も性質を知らう筈はなく、グングン突き出し汽車はドシドシ出て行つた▲で、結局氏はチョボンと寂しく眼鏡を光らしつゝ一寒驛で時を過さねばならなかつた▲其後來る列車も軍隊充滿で、氏は餘儀なく曲阜驛に夜を明し、漸く其の翌日南下したさうだが、こんな癖に際つて困つた事はなかつたとは氏の話し▲其の列車の軍隊は北支那方面から南方討伐のため動かしたものだつたとの事

天長節奉祝 大提灯行列

來る三十一日午後六時

市民諸君の振つて參加を希望す

市民奉祝會

冬物賣出し

軍隊及鐵道局拂下品 既製品及中古洋服

茶褐外套毛布防寒シャツズボン手袋靴下人夫用古服類澤山あります

▲詰衿折衿洋服オーバーコート婦人コート長トンビ大島袋小供マント類

○男女御衣裳一式

▲特に上等御召の中古御婦人向へも澤山取揃へてあります

龍山元町二丁目電話百〇五番 衣服商 金子與市商店 振替京城三八一三

印刷インキ製造 京城明治町二の二 電話三一一六 振替京城二三二五九 櫻井商店

わた 大下落 品入荷 （メリヤス）綿部 京城 [illegible]

朝鮮銀行

當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候

京城 電話 [illegible]

支店 東京、大阪、神戶、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、營口、長春、開原、四平街、吉林、哈爾賓、傅家甸、龍井村

出張所 右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

各種萬年筆即時修繕 京城旭町 [illegible] 東京パイン萬年筆出張所

於朝鮮釀造品評會 一等賞受領

商標 福

醬油釀造元 弊店釀造の醬油は今回朝鮮釀造品評會に於て幾多出品中の群を拔き壹等賞受領の光榮を得申候は江湖各位の深厚なる賜と感謝の至りに候自今一層品質を吟味し御高志に酬ゐん事を期し申候間多少共御用命願上候

京城府並木町 電話一四四三番 岡本福太本店

京城本町四丁目 電話一四四三番 食料品雜貨部 岡本福太支店

朝鮮釀造品評會 壹等賞受領

京城蓬萊町 發賣元 三巴酒造株式會社 電話長一〇六七番 振替京城六一八番

太田出張所 電話長一二五番

平壤出張所 電話長五一一番

櫻御殿

第五十三回　三左衛門の血（十）

大阪　霞の家主人

『此の場に臨んで何事ぢや』

圖書は強い聲で云つた

『貴方若樣へ仰せ殘される儀でもござりませぬか』

嘉市はこれを別れと思ふやうに、おろ〳〵見上げる、その目の中に涙が漲ふ

『出陣の折から、云ふべき事は云ふて參つた、今さら言ひ遺すことがあらうか』と強く云つたが、やがてするりと短刀を引き拔いて

『これを一徳丸へ記念に遣はす、我等最後の血を塗つた一刀ぢや、其方預かり、一徳丸へ手渡し致せ』

一徳丸は圖書の長男である

『委細畏り奉ります』

『さうして』と背後に立つた直政を見て『井伊公へ願ひ置く、その一刀をこれなる家來に遣はしたいと存ずる、御介錯相濟む上は、血汐の付いたまゝを、御遣はし下されうぞ』と頼んだ

『お誼無に承はる』

直政はすぐ答へた、圖書は嬉しげに莞爾と笑つて

『その一刀來國俊ぢや、我等最後の血を塗つたまゝ記念に取する』その詞が念を押すように云ふ、嘉市は戰慄とするほどに感じて腸腑へ食ひ入る、嘉市は戰慄とするほどに感じて

『心に懸けて拜領致します』と云ふ間に心を極める。

『これにて思ひ置くことない』

圖書は短刀を左の脇腹へ突き立てゝ、じり〳〵と右手へ引く、次の間に詰めて居た多くの家來は悲しげに涙を呑む、此の時、直政が『や』と聲かけて打ちおろす刄の下に、首は空しく前へ落つる

一時に『わッ』と泣く男の聲、直政は遺言に由つて、一刀を嘉市に渡す、嘉市は受けて鍔元から尖頭まで穴の穿くほど見詰める、たら〳〵と滴る血汐の中に、圖書の恨が籠つて見ゐた

『お恨みはきつと晴らしまする、このお刀に相手の血を塗る時あるを今から想ひ遣りまする』

嘉市は、心に斯う云つて、滴る血汐を嘗め盡した、圖書が血汐の付いたまゝを記念に遣つて呉れと望んだ主意は『最後の血の一滴を、最も寵愛した近臣に與へたい望みからであつた

直政はまづ首級を取りおさめて次に屍骸を引き起す、一文字に切つた疵口から、紫い血が瀧のやうに流れる、その間から短刀を取り上げて、これも嘉市の手に渡す

數ある家來の中で、嘉市一人がこの名譽ある委托を受けた、彼は圖書の血を啜つた、同時に圖書の心を受け繼ぐ、更に圖書の心を受け繼ぐ、彼の身體には圖書の血が流れ、彼の胸には圖書の[illegible]る、彼は夢の如く坐つて居[illegible]

『御首級に御暇乞が致したうござります、御聽許がござりませうか』

次の室に控へて居た家來は云つた、直政は闘りなく主に離れた人々の心を推量して

『心置きなく暇乞ひを致されへ』

と云ふ、家老の伊奈清兵衛を初めに、百餘人の家中が、大波の頽れるやうに押し入つて、涙ながら首級を拜む、それを見るにも直政は涙であつた

『斯樣に御生害ある上は、家臣の面々、別に御用とてもあるまい、匆々江戸へ立ち歸つて、一徳丸に仕へ申せ、内府公に於かせられても、決して疎略には遊ばすまいぞ』と云ひ聞ける

『さらば御屍骸を灰にして、御記念の品諸共、江戸へお供を致すでござりませう』

清兵衛が一同を代表して云ふ、直政は圖書の首級の血を拭つて、首桶の中へ蔵め、悄然と立ち出づる、日は早や落ちて、如意ケ嶽の淡紅葉に夕陽が殘る

絞馬靜かに、逢阪の麓へさしかゝると、背後から『お願ひがござります〳〵』と呼ぶ者がある、直政は驚いて振り返つた

京城明治町二ノ三二一（元實業倶樂部跡）
花柳病 皮膚病　須古醫院　電話二一〇二番

半ゑり 帶あげ 帶しめ
京城旭町一丁目　ゑり治 呉服店　電話二五六二番
年期刺繍弟子十五歳位の者募集

京城旭町三丁目　京染商　つた屋　電話一四九六番

大阪財界だより

[illegible]式は目下法律上先物賣買效力如何[illegible]につき論議せらた[illegible]懇合の形式にて[illegible]委員は二十五日山嘉商店より提出するバランスシートにより今後の[illegible]の債權者たる關係より今後決濟の[illegible]るならんといふ及怡豐洋行が山嘉[illegible]るは食料品に多く下落は織物類に[illegible]多く其の重なるもの左の如し[illegible]式に遲延したる件に就ては細目に[illegible]りて疑問なるが二十五日入電に[illegible]五千梱を試製し精選の上三梱丈を[illegible]米國へ輸出試驗せしに好成績を得[illegible]劣惡の爲め成績不良なりしかば今[illegible]回は三田尻産上等團を移入し使用[illegible]することゝせり[illegible]

石油罐が一個一圓

各地の石油會社ではブリキの拂底の爲めに非常に困つてゐる、歐洲戰前までは一斗入の石油罐が一個二十五錢で出來たものだ、それが次第に上つて來た上に、例の米國鐵禁輸からいよ〳〵暴騰し、今では一個一圓するやうになつた、それでも作る材料が缺乏してゐるので、わざ〳〵社員を田舍に遣つて、古い空罐を搜し集めてゐる、古い空罐が一個五十錢、それでも思ふやうには集まらない、備中の尾の道に空罐株式會社といふのが創立された、言ふまでもなく石油の空罐や罐詰や茶筒やを漁り搜してそれを石油會社や各製造場に供給するのである、そして相當な利益配當をしてゐるさうな、越後の油田を有つてゐる各石油會社では、是れまで油坑が廢坑になつた場合は、其の坑を掘るのに、坑夫等は面倒臭いので其邊に在る空罐や鐵片を土と一緒に投げ込んで埋て了ふ、今になつて掘返して見ると役に立つ板が幾個も出る或廢坑などからは千圓近くの鐵が現はれたといふ事である、錆でボロ〳〵になつた鐵片からは染料が採れブリツキの細い切り屑は町嬢にそれを撚合せて手紙籠に作る樣うして鐵の屑まで種々に利用されるのである

日報歌壇

虫

林檎の皮に虫鳴く庭暗く捨つ　待宵
放しやる虫二三日は啼き過ぎ　同
虫の來て眠に街の灯が明く　同
磯芝居の果てし灯搖る虫の聲　[illegible]
夜機織る灯に虫が鳴く小窓哉　同
スル〳〵と仁る雨戸や虫の聲　汀雨
尼寺を訪ふ物賣りや虫夕べ　北豐
坐延虫聽く顏を並べけり　同
袂分つ川の土橋や虫の聲　秋季
朗かな庵主の聲やちゝろ蟲　白天
馬買うて飲み果したり虫の聲　末刀
驛出でし暗き徑や蟲の聲　月
夜延れば爽に鳴き初めし　愛山
動亂の沙汰に夜更け蟲の聲　枕
虫を分つ板塀低き社宅かな　紫光
樣に寢て脊冷かや虫の聲　飛泉
虫の中にランプ點せる驛哉　汀石
法話果て虫鳴く坂を下り兒　恐堂
裏土手に月が上りぬ虫の聲　靖好
蓄音機止りしとまや虫の聲　馬居

新刊紹介

朝鮮總督府醫院に於ける醫士試驗は二十二日より開始せられたるが應試者内地人十五名鮮人五名合計二十名あり來る十一日十日過ぎ頃の成績發表せらるべく受驗者の資格は四年以上にて終業の醫學校を卒業者は三年以上醫術を治めたる者に非ざれば受驗者たる資格なきなり試驗問題左の如し

▲物理學問題 （一）深さ水の表面のみ凍りて全體の水の凍らざる別るは何故なるか（二）都口の「ガラス」瓶に水を充たし倒にするも水の出ざる理由を説明せよ（三）電氣分解とは如何なることを云ふか

▲解剖學問題 （一）肺臟の形狀位置及び其構造を記せ（二）側骨下動脈に就て記せ（三）正中神經に就て記せ

▲生理學問題 （一）胃腸の官能を述べよ（二）トロンメル氏糖試驗の方法及び其の原理を記せ（三）膽汁の消化に及ぼす作用如何

▲化學問題 （一）カリウム液所在の作狀を詳記せよ（二）水酸化カリウムに硝酸を加ふれば如何なる化合現式をなすや（三）ヒドリンの所在及性狀を詳記せよ

▲朝鮮藥藥及漢方藥料植物調査書（朝鮮總督府發行）本書は曩に朝鮮彙報に揭載せられたるものを訂正增補して發行したるものにして當今の植物調査書は朝鮮植物調査の最初の理學博士中井猛之進氏の調査に係り後編漢方藥料植物調査書は總督府技手石戸谷勉氏の調査に係るものなり共に鮮明なる寫眞挿圖及び地圖插入し舊來植物調査書は狼林山脈の最高峯たる蓋米の植物を記し漢方藥料植物調查書は朝鮮漢方藥の調査を記し朝鮮に於ける漢方藥料の需要供給及び藥料植物を一々説明せるもの七十三を掲げ附錄として藥料名索引、朝鮮產主要漢藥價格表をも記載せり（九十錢、本町代理部發賣）

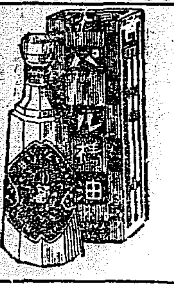
▲新聞便覽（二ノ十二）一部五十錢大阪市南區日本橋北詰某社

▲帝國農會報（　）十二錢東京赤坂溜池町帝國農會

▲商と工（一〇）二十錢東京京橋彌左衛門町商工社

▲現代之科學（一〇）二十八錢東京市外澁谷現代の科學社

岡本米藏 牛	價一〇〇〇 郵税一六
同 三版 商工界の七十日	價五〇 郵税六
同 吉版 修學行商日記	價三五 郵税六
同 二版 紐育市内外の地所	價九〇 郵税六
民友社發行 京城日報代理部 女義士傳	價五〇 郵税八（振替京城三〇〇）



パール椿油

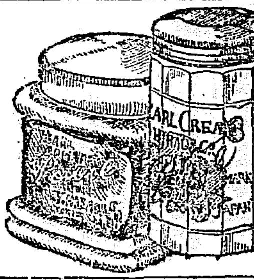
毛生え 美しさ 髪油

パール椿油

礦物を加合せず化粧化學を應用し香氣馥郁として絶對養毛に適したる純植物製……パール椿油

本品は製造者は數十年來愛用諸子の御同情に依ると同時に平尾パールが如何に品質の改良に熱心忠實なるかを證明するに足る

發賣元　平尾バールー　東京
代理店　平尾レート　大阪



パール煉香油

パール煉香油
パールポマード

日本内地は勿論海外各地に亘る多の愛用者を有し昨今殊に海外の輸出激增し各所より山なす注文……

赤玉ポートワイン

美味 滋養
純生粹 葡萄酒
赤玉ポートワイン

赤玉ポートワインの 夕の一杯は疲勞を醫す

一日の疲勞を醫すべく諸君は如何なる方法を取つてゐますか身も心もとろける樣な疲れた場合、美味と滋養の葡萄酒赤玉ポートワインの一杯は生々とした元氣を生み出すのみならず後に二倍の元氣が出て如何なる劇務にもたへられる

赤玉ポートワインの 朝の一杯は元氣を増す

朝の元氣は一日中の元氣活動を支配す、朝元氣で愉快なれば一日の仕事がどんなに愉快に進捗するか知れない、美味と滋養の葡萄酒赤玉ポートワインは愉快と元氣を生む原動力を持つ葡萄酒である、故に毎朝一杯づゝ召上れば一日愉快で元氣に執務が出來る

高貴織

壹千反限り
正金代用金指輪進呈
高貴織

高貴織が一圓七十錢で買へるとは眞に料の高き今日驚く可きの橫だが眠に過去五年間の調査に依る假令品質一圓の打捨賣りを東京日本橋區本石町一丁目喫茶所前商店の縱縞を前記の馬鹿値で投賣しつゝある

高貴織は羽根が生て飛ぶ様に賣れて行く大好評だ色柄も地質も一見高價の品物に見えるが實は卸し品で一丁二圓七十錢と云ふ一割特別に製し正金三圓共錢でメッタに賣らぬ品だ色は不思議に安實でぬ物は損ならけり記念として正金指輪一をそめた又他方の希望者は代償の代金と共にハガキに男女別年齡を記し申込めば丁寧に親切に選び送ることにしてあるから費用も實費で送ることの料金は

九日ミヤコ
男用一打四拾錢
定價一個十五錢
藥價半額
麻病梅毒專門藥
京城本町三丁目
東京ドラッグ商會

七日でソバカスを取り鏡をどら色白くなるゲンソ液
小瓶二十錢 徳用四十錢
今年の夏の日焼を治して色の黒きを治し毎日ヤケ、アレを防ぎキメをコマカにし色白く美人美男子となる全國の藥店小間物化粧品店にあれ近所に品切の節は切手代用御送附あれば送品す　送料内地八錢朝鮮州錢　東京神田和泉橋際　松本藥店

鮮日會話精通

朝鮮總督府屬 普成法律商業學校講師 西村眞太郎著 來月中旬發賣

袖珍總クロース美本　七百餘頁　定價金壹圓參拾錢

一、本書は商業程度の會話書にて現今行はるゝ會話中に發見する能はざる必須語を多數に揭載せり
一、本書は凡そ社會全般の事物を網羅し盡して收めたれば之を一つの國鮮語辭書として見る事を得べし
一、本書は内鮮人を問はず通譯事務に從事する人の最好の參考書なり
一、本書は各學校の會話教材に最適當の事項を集めたり本書は各種講習會の良參考書たり
一、本書は新しき對譯法を用ゐあれば一讀直に其の眞意を知りて實地に應用する事を得べし
一、本書に掲げたる内鮮俚諺數百は一般に鮮語を解し得たりとするもの にては甚だ覺束なきものならずや本書は其の智識のみならず貴重なる新譯語を以つて充滿せり
一、本書は研究せむとする人士あらば一層確實に所行に備へられよ、朝鮮語の秘奧は本書に依りてのみ極むる事を得む
茲に朝鮮語を學ばむとする人士は速に本書を購求せよ

發行所　京城大平通一丁目　京城日報社代理部
振替京城三〇〇番　京城本町一丁目（振替京城二五七三番）　大阪屋號
取次所

船舶廣告

大阪商船仁川出張所
乘船の節は五分引を以て運賃割引（外國航路は除く）
●神戸、大阪行
××濟州丸　十月　日後二時
×濟州丸　十一月　日後二時
●南浦、神戸、大阪行
△山東丸　十月　日後二時
×信ノ川丸　十月　日後二時
●木浦、釜山、屬原、鎭の浦、長崎行
××安東丸　十月廿九日後二時
×安東丸　十一月十六日後二時
○南浦行
△山東丸　十月　日後二時
××濟州丸　十月　日後二時
●鎭南浦、大連行
××安東丸　十月廿九日後二時
×安東丸　十一月十一日後二時
●西湖津新浦城津清津行（元山經由）
宮島丸　十月　日後六時
●清津行（元山出帆）
安平丸　十一月八日後二時
●上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸　十月
湖北丸　十月三十日前六時
御注意　切符發賣所大阪商船會社仁川支店　電話二二番　切符發賣所内國通運會社京城支店
切符發賣所　仁川京城　電話　開業

釜山出帆廣告
汽船
○門司、神戸、大阪行
和歌浦丸　十月三十日後五時
立神丸　十月　日後五時
○元山、浦鹽行
和歌浦丸　十月　日後五時
○元山、清津、城津、西湖津行
立神丸　十月廿九日後四時
○元山、西湖、新浦、城津、清津行
第三共平丸　月　日後六時
○門司、宇品、神戸、大阪行
第三共平丸
○佐須奈、嚴原、郷浦、勝本、博多行
天真丸　毎月一日九日十四日廿一日廿六日後二時
釜山港埋立新町本船取扱店　大池回漕店

朝鮮郵船
本社京城南大門通　電話二九五二番三
支店出張所及代理店　京城支店　松原運送店
○關門より釜山各地經由雄基行
但し×印あるは江原道寄港せず
×平壤丸　十月　日
成鏡丸　十月三十日
京畿丸　十一月四日
忠清丸　十月　日
○元山より各地經由雄基行
咸鏡丸　十月　日
咸興丸　十月三十日
平安丸　十一月　日
○浦潮行（元山より雄基經由）
平安丸　十月　日　元山發
○元山長箭間
三陟丸　十月
江原丸　十一月一日　元山發
○釜山元山間（一時休航）
○群山島行新項及各地經由
昌徳丸　十月　日　釜山發
○浦項行（浦項、竹邊、蔚珍經由）
江陵丸　毎日　釜山發
慶尚丸　毎日　釜山發
○濟州島行長承浦麗水巨文島經由
慶尚丸　十月　日　釜山發
○麗水行（各地經由）
濟州丸　巨濟丸　毎日　釜山發
○木浦麗水間（麗水にて釜山行接續）
一時休航　三日目毎に木浦發
○木浦より濟州島行各島經由
西歸丸（公州丸）慶興丸　十月廿九日　木浦發
○木浦行（群山其他各地經由）
晉州丸　十月廿七日
咸興丸　十一月一日　仁川發
○多島海各島行
慶興丸　十一月二日　木浦發
○鎭南浦行（海州其他各地經由）
宗信丸　十月三十日　仁川發
○海州行（江華島喬桐島經由）
全州丸　毎日　仁川發
○南島行（長承浦、大連經由）
江原丸　十一月　日　仁川發

法院出張所開設

咸興地方法院管内にて江陵、楊口、平康、淮陽、[illegible]、鐵原[illegible]

舊棧橋營業廢止

釜山棧橋株式會社は過般の臨時株主總會にて解散を決議し且つ同會社[illegible]